





GASA

Global Anti Scam Alliance (GASA) の使命は、意識を高め、実践的なツールを実現し、知識の共有を促進し、研究結果を整理し、トレーニングと教育を提供することで、世界中の消費者を詐欺から保護することである。

<https://www.gasa.org/>



Gogolook

Gogolook は、2012 年に設立された業界をリードする TrustTech 企業である。中核的な価値として「信頼のための構築」を掲げ、AI 駆動型およびデータ駆動型のグローバルな詐欺防止ネットワークと、サービスとしてのリスク管理を構築することを目指している。マルチコミュニケーションからフィンテック、SaaS、Web3 まで、Gogolook はさまざまな分野のテクノロジーを使用して、信頼できる支援を行う。Global Anti-Scam Alliance (GASA) の設立メンバーである Gogolook は、台湾 National Police Agency (警察庁) Criminal Investigation Bureau (刑事局)、韓国の金融監視サービス、タイ王立警察、福岡市庁、フィリピン Cybercrime Investigation and Coordinating Center (CICC：サイバー犯罪調査およびコーディネーションセンター)、マレーシア警察と州政府などの多数の機関と協力して、詐欺と戦い、最終的に、東・東南アジア最大のデータベースで信頼できるコミュニケーション・ネットワークを構築する。

<https://gogolook.com/>



Anti-Scam Asia Summit (詐欺防止アジア・サミット)

台湾の台北で、GASA と Gogolook の共同で初めて開催された第 1 回 Anti-Scam Asia Summit (詐欺防止アジア・サミット) は、Global Anti-Scam Summit (グローバル詐欺防止サミット) の姉妹イベントとしての役割を果たした。サミットの目的は、アジアのさまざまな国からの政府、法執行機関、市民組織、企業の代表者、消費者の間での意見交換を促進することである。AI テクノロジーが急成長する時代に、サミットに専門家を集め、詐欺の脅威に対抗し、消費者の安全性を確保するための事前対策について議論した。

結束が詐欺と戦うための 究極の鍵

今年初めから、Gogolook は GASA に加盟し、アジア全域で詐欺防止対策のベストプラクティスを普及させるため、パートナーシップを構築する努力を倍加させるとともに、欧米のカウンターパートとの対話も開始した。「結束」が詐欺との戦いの基軸であるという強い信念には揺るぎがない。10 年以上の詐欺防止業界への献身的な従事と、さまざまな国の政府機関、企業、市民組織との協力を通じて、GASA の創立メンバーとして Gogolook が、今年初めて Asia Anti-Fraud Summit (アジア詐欺防止サミット) を開催する栄誉を受けたことを大変うれしく思っている。このサミットでは、遠く広範な国々から、とりわけ、法執行機関、多国籍企業の代表、人工知能分野の専門家が一堂に会した。共に、私たちの目的は、一般の人々の詐欺に対する意識と警戒心を高め、各国における詐欺防止と AI の応用に関する将来の政策立案と提唱の礎を築くことである。

このレポートでは、台湾、日本、タイ、マレーシア、フィリピン、韓国、香港、シンガポール、ベトナム、中国、インドネシアを含む、アジア 11 地域の約 20,000 人の回答者からの直接のデータが収集されている。回答者の過去 1 年間で詐欺に遭遇した体験を共有してもらうことで、詐欺活動の現在の環境と地域による違いに対する微妙な洞察を得ることができた。この知識によって、法執行機関は調査の取り組みを効果的に進め、立法府は新しい法を草稿し、業界の利害関係者はカスタマイズされた詐欺防止ソリューションの開発を促進できる。



GASA取締役兼Gogolook会長

Jackie Cheng



カメレオンのような敵に対するアジアの戦いは始まっている...

アジアのデジタル拡張にまたがり、絶えず進化する詐欺業界が落とす影が延びている。2023 Asia Scam Report(2023 年アジア詐欺レポート)は、詐欺が私たちの日々の生活に忍び込む方法を明確にし、多様な通信メディアへの詐欺の蔓延を明らかにし、その脅威の軽減に役立つであろうパターンの判別に努めている。

詐欺業界は、その範囲はますますグローバル化しているが、ローカルな環境の文化的およびコミュニケーションのニュアンスにきめ細かく対応され続けている。Global Anti-Scam Alliance (GASA) と Gogolook の共同によるこのレポートは、アジア 11 地域からの回答者を網羅した包括的な調査に基づいている。目的は 3 つある。

1. 詐欺が蔓延しているチャネルの明確化
2. 詐欺に対する一般の人々の反応と防御への理解
3. アジア全体の詐欺に関連する規模と損失の明確化

詐欺師たちは、電話や SMS メッセージの従来手段を引き続き最も頻繁に使用している。しかし、Facebook や WhatsApp などのプラットフォームは、旺盛なデジタルの普及により、若年層をターゲットにした詐欺の温床となっている。

このレポートでは、プラットフォームだけでなく、アジア地域を蝕んでいる詐欺のタイプも示している。いくつかの地域では個人情報の窃盗が主な形態であり、他の地域ではショッピング詐欺や投資詐欺が増加している。信頼や貪欲などの人間の感情を残酷なまでに搾取するのが全体的に共通する特徴である。

詐欺に対する認識不足から、魅力的なインセンティブの誘惑まで、人々が詐欺の誘惑に負けてしまう理由を明らかにしている。これらの洞察は、私たちの理解の基盤を形成し、このような詐欺行為から国民を守る強固な教育的枠組みの必要性を強調している。

このレポートは、結果として見られる経済的回復の度合いはまちまちでも、被害者、非被害者を問わず、報告を通じてこの惨劇と闘う決意を明らかにしている。これらの取り組みにかかわらず、便利な金融サービスのニーズと詐欺防止の責務の間には緊張関係が残っている。

要するに、このレポートは、政府、金融機関、デジタル・ドメインを閲覧しているすべての個人への協力を求めるものである。詐欺との戦いは、単一の前線で行われるのではなく、カメレオンのような敵との消耗戦である。私たちの目的は、利害関係者に知識を提供し、アジア内の詐欺行為者に対抗する楯と鉾の両方の役割を担ってもらうことだ。



このレポートは、過去の記録以上のものとし、アジアの人々が善の力として結集するための呼びかけとしよう。報酬は単なる苦勞して稼いだお金ではなく、デジタル社会の構造における信頼である。団結して立ち上がることで、アジアはもはや詐欺師たちの遊び場ではなく、痕跡なく私たちの生活の尊厳を蝕むことができると確信している彼らを征服する完全無欠な要塞であると保証できる。詐欺が警戒を緩めて良い時代の単なるなごりとなる日がくるまで、この戦いに参加してほしい。



GASA、経営責任者

Jorij Abraham

戦いを超えて：アジアで詐欺師に打ち勝つために消費者意識を高める

Chongluadao は、詐欺対策に特化した非営利組織として、GASA & Gogolook による 2023 Asia Scam Report (2023 年アジア詐欺レポート) に掲載されたベトナムにおける調査を実施する上で重要な役割を担った。Chongluadao の詐欺撲滅に対する献身は、ベトナムで 1,000 人を超える回答者から洞察力のあるデータを収集する上で極めて重要であり、特にベトナムにおける、2020 年以降の詐欺事件が年率で大幅に増加し、エスカレートしている傾向に焦点を当てた。レポートから主だった数値を挙げると、アジア 11 地域の 20,000 人の回答者の調査結果から、詐欺被害は特に東南アジアで顕著であり、詐欺件数は 2020 年以降複合年間増加率 29.8% で大幅に増加していることが明らかになった。

他の重要な国々と同様に、ベトナムでも詐欺活動の増加が見られ、回答者の 63.9% が詐欺を見分ける自信があると述べている。このような自信は、詐欺防止教育の有無と、詐欺の進化レベルによって決定される。その一方、過信はさらなる脆弱性につながる可能性があり、懐疑的な姿勢と検証を継続することの重要性が強調される。

電話と SMS が引き続き最もよく使用されている詐欺の手段であるが、現在、ソーシャル・ネットワークやインスタント・メッセージ・アプリケーションなどのデジタル・プラットフォームが重要な手段となっている。調査によると、Facebook と WhatsApp が詐欺脅威に関連する上位のプラットフォームであり、的を絞ったデジタル監視の重要性が高まっている。この調査結果は、企業の立場から、特にデジタル・リテラシーや消費者意識向上への取り組みなど、詐欺防止への投資の必要性を明確に示した。消費者と企業を同様に保護するための強力な詐欺防止フレームワークとテクノロジーの構築において、政府、企業、市民団体間の協力体制が不可欠である。

レポートは、ベトナムと他のアジア市場において、巧妙で進化し続ける脅威環境と戦うための、社会的認識の向上、政策策定、高度な詐欺防止ソリューションの採用を呼びかけるものである。



NCSC Viet Namの脅威ハンター兼Chongluadao.vnCEO

Hieu Minh Ngo



目次

章	ページ
詐欺を見分ける自信	6
詐欺に遭遇した頻度 (広告、Eメール、電話、メッセージ、Web サイトを含む)	8
一般的な詐欺のチャネル	10
詐欺のリスクが集まるデジタル・プラットフォーム	14
主な詐欺のシナリオと手口	17

章	ページ
詐欺の犠牲になった主な理由	21
報告意欲と回収した損失の割合	25
詐欺報告先の組織と機関	29
詐欺を報告しない理由	31

詐欺を見分ける自信

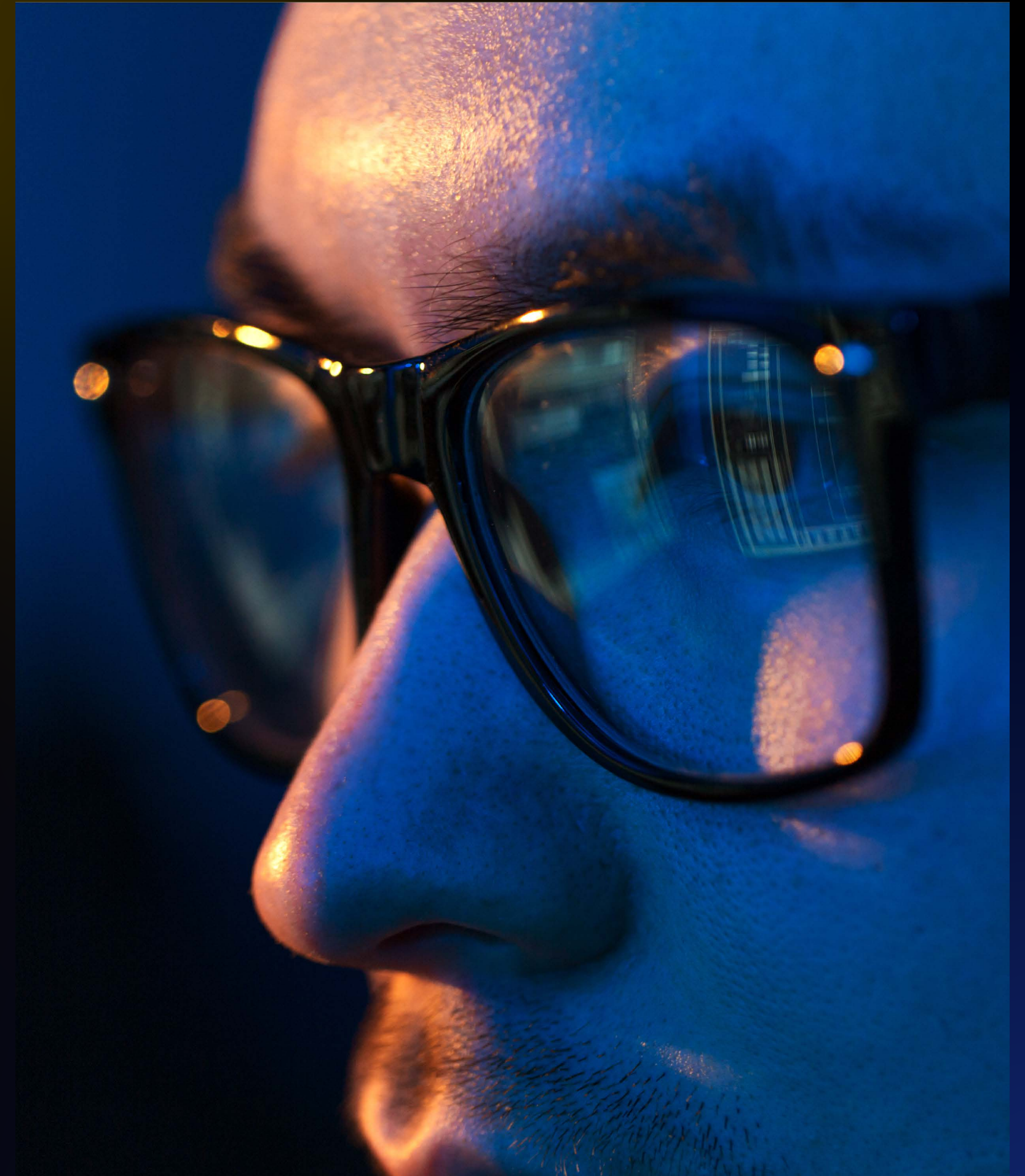
1

この調査では、GASA と Gogolook は、アジアの 11 地域の一般の人々を対象に「詐欺を見分ける自信」の自己評価を実施し、自信度を 0 から 100 の指標に変換してもらった。自信度に関する上位 5 地域は、インドネシア (80.0)、中国 (78.6)、フィリピン (74.0)、シンガポール (70.2)、台湾 (67.1) である。その他の地域は、次のようにランク付けされた。香港 (66.3)、ベトナム (63.9)、タイ (63.3)、マレーシア (62.8)、日本 (61.9)、および韓国 (61.3) である。一般に、異なる地域の人々の詐欺を見分ける自信は、2 つの主要な要因、つまり、「詐欺防止教育の普及」と「詐欺の進化の段階」による影響を受ける。

第 1 に、詐欺防止教育の普及は、主に、詐欺防止キャンペーンにおける政府の取り組み、詐欺に対するメディアの注目度、詐欺防止製品の採用率と関連している。たとえば、台湾では、詐欺の長期にわたるマスコミ報道が、一般の人々の警戒心を高め、詐欺との戦いに専念する政府と企業のリソースの増加につながった。一方、詐欺の進化の段階は、地元の詐欺師の成長期間、詐欺の蔓延度、詐欺の手口の適用に関連している。たとえば、詐欺師が詐欺に最新テクノロジーを採用したか、一般の人々と接触するためにさまざまなチャネルを使い始めたかどうか

が、詐欺と戦う上での、人々の詐欺を見分ける能力とその自信に大きく影響する可能性がある。

迅速に変化する詐欺の手口と AI や Deepfake のテクノロジーの応用に直面して、詐欺の特定に自信過剰になっている人々は、しばしば、罠に陥りやすい傾向がある。懐疑的な見方をし、検証する習慣を維持することが、詐欺を回避するための鍵となる。ASEAN CIO Association の執行委員であり、現在フィリピンの Gogolook 社長である Mel Migrño は次のように分析した。「調査によれば、フィリピン人で詐欺を見分ける自信がないのは 7% のみである。ただし、これはフィリピンで包括的な詐欺防止教育と防止対策の環境が整っているという意味ではない。特に、現在、フィリピンにおける主な詐欺パターンには、大量のフィッシング・テキスト・メッセージが含まれている。さまざまなテクノロジーの導入と金融サービスの段階的なデジタル化によって、人々が自信過剰になるのを避けるべきである。」



詐欺を見分ける自信

 台湾



 タイ



 日本



 韓国



 フィリピン



 マレーシア



 香港



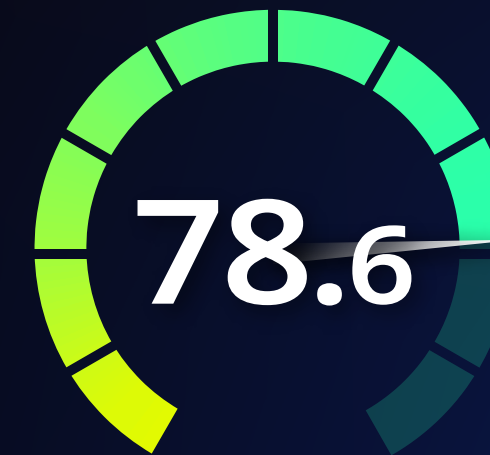
 シンガポール



 ベトナム



 中国



 インドネシア





詐欺に遭遇した頻度

(広告、Eメール、電話、メッセージ、Web サイトを含む)

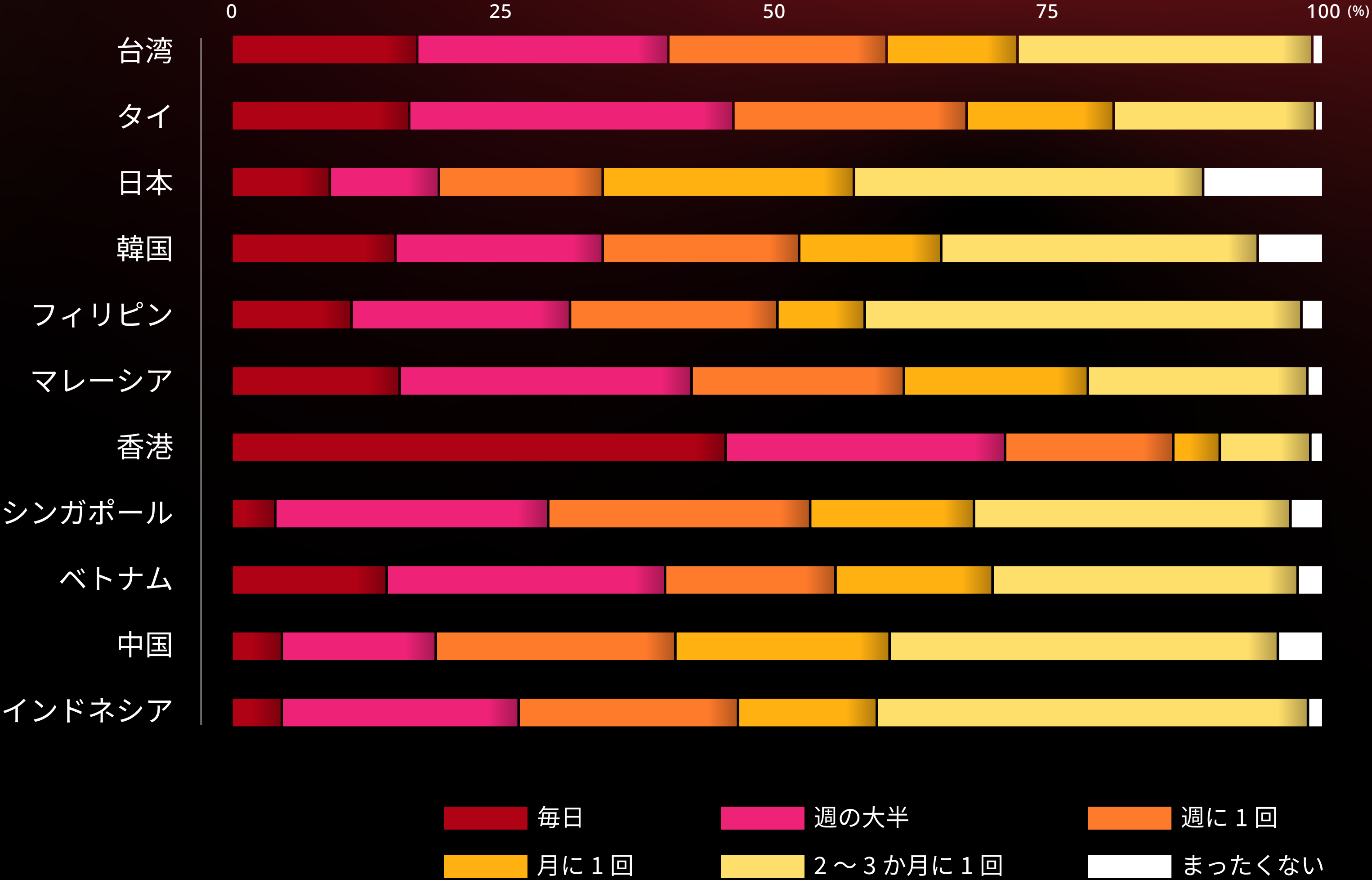
2020年にCOVID-19のパンデミックが発生して以来、世界中の政府や企業がデジタル変革に取り組む中で大規模なデータ漏洩に見舞われており、それによって詐欺の脆弱性が生まれている。これは、特に、以前はほとんど影響がなかった東南アジアにおいて、詐欺活動の相当な数の増加につながった。Whoscall（発信者番号識別アプリ）の統計によると、アジアで1人当たりが受信する詐欺電話やテキスト・メッセージの平均回数は、2020年の8.9回から2022年には15回に増加し、年平均成長率は29.8%となっている。さまざまな政府による積極的な詐欺防止対策と法制定にもかかわらず、詐欺と隣り合わせの生活という「ニューノーマル」の出現に、まだ十分に対抗できていない。

GASAとGogolookの調査では、さまざまなアジアの国の回答者に、さまざまなタイプの詐欺に1年以内に遭遇した頻度について質問した。これには、従来の詐欺チャネルと新出の詐欺チャネルの両方である、広告、Eメール、電話、テキスト・メッセージ、Webサイトを介した詐欺が含まれる。結果は、調査した11地域のうち香港が最も詐欺の発生率が高く、「毎日」

詐欺に遭遇したと示す回答者が驚きの45%に達し、「週の大半」詐欺に遭遇したという人が26%で、アジアの他の地域より著しく発生率が高い。タイは、2番目に発生頻度が高く、16%の人々が「毎日」詐欺に遭遇したと述べ、30%が「週の大半」詐欺を体験しており、マレーシアと台湾をわずかに上回っている。対照的に、フィリピン、日本、インドネシア、中国では、詐欺の発生頻度は比較的低いままである。とりわけ、日本の回答者の11%が詐欺に遭遇したことがないと述べており、アジアの異なる地域での詐欺の蔓延の割合と段階がさまざまであることを示唆している。

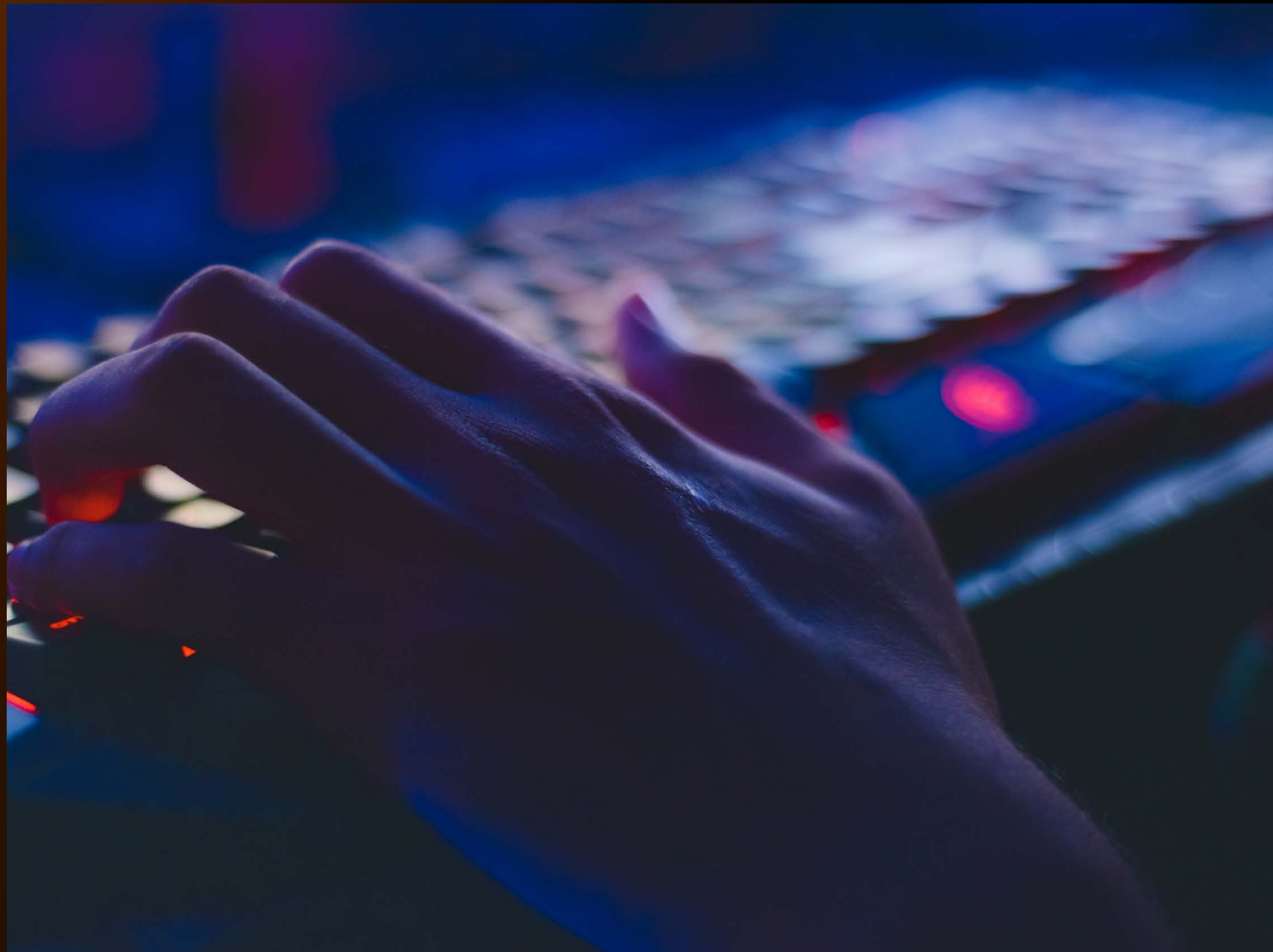
2

詐欺に遭遇した頻度



一般的な詐欺のチャネル

3



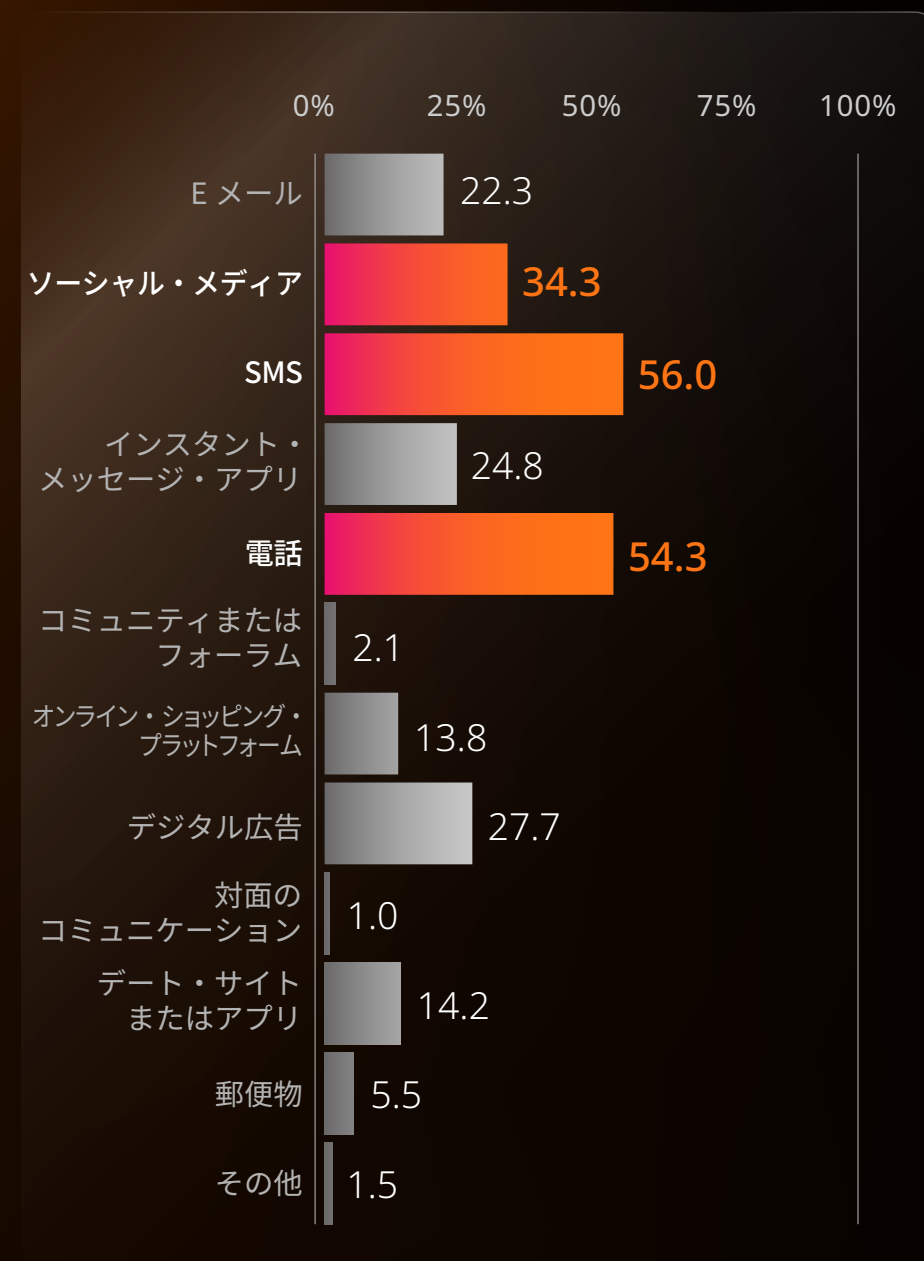
詐欺業界はますますグローバル化されているが、詐欺師と一般の人々のタッチポイントは、引き続き、ローカルの文化と主要なコミュニケーション・チャネルによって大きな影響を受ける。GASA と Gogolook は、E メール、ソーシャル・メディア、SMS、インスタント・メッセージ・アプリ、フォーラム、電話、オンライン・ショッピング・プラットフォーム、デジタル広告、デート・アプリ、物理チャネルなどの詐欺が隠れている共通のシナリオを特定した。回答者には、これらのメディアの中から、過去 1 年間に詐欺情報に接したメディアを選択するように依頼した。このデータは、異なる地域で詐欺活動が集中するエリアを特定するために役立ち、詐欺防止のローカライズされた戦略を立てるための情報となる。

調査結果を見ると、引き続き、「電話」と「SMS」がアジア内の詐欺で最も頻繁に悪用されているチャネルであり、11 地域のうち 8 地域で上位 2 位を占めている。これらの地域の中で、タイ、

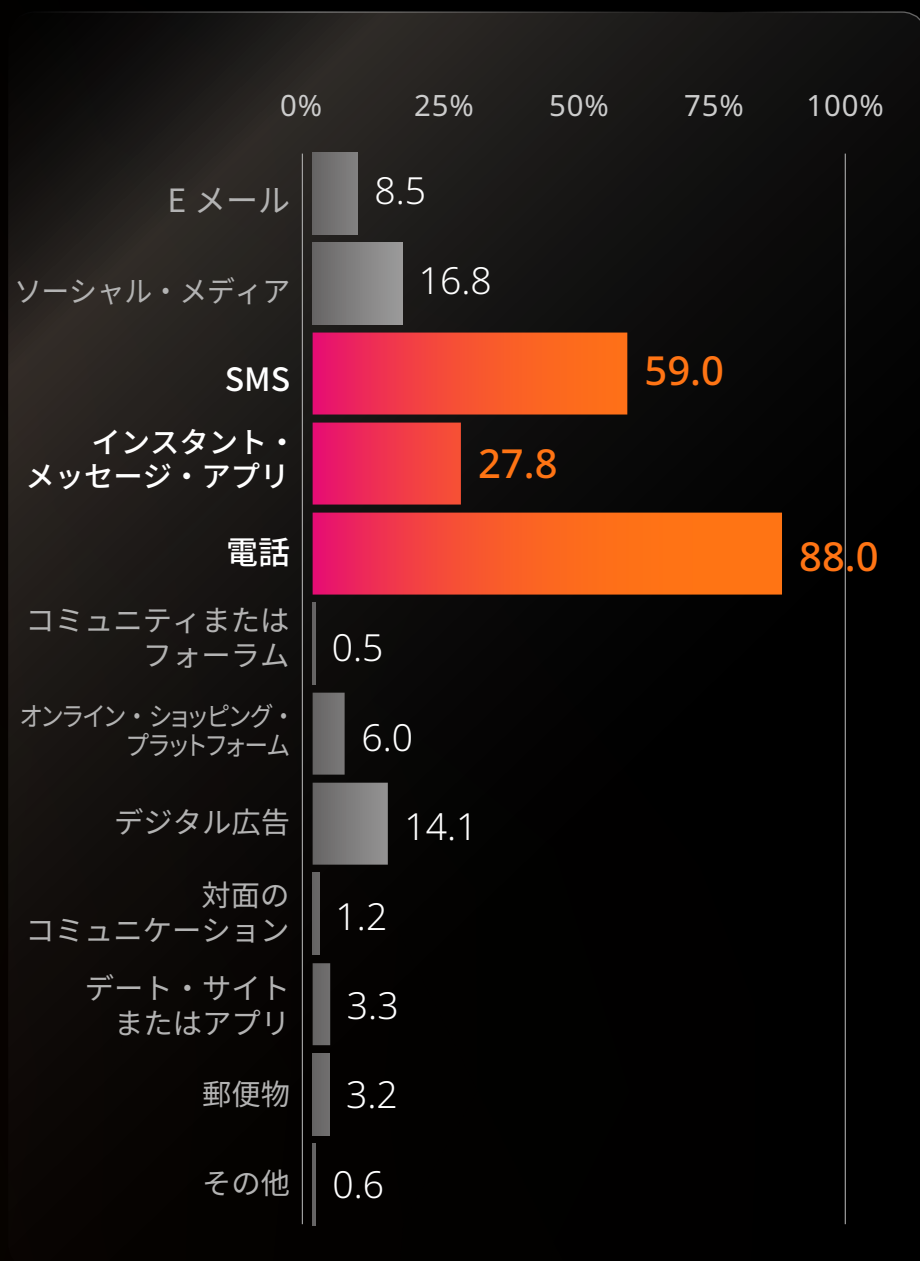
マレーシア、香港、ベトナムでは詐欺電話を受信した人が母集団の 75% を超えており、一方、フィリピン、韓国、インドネシアでは詐欺 SMS を受信した人が母集団の 75% を超えている。「インスタント・メッセージ・アプリ」、「ソーシャル・メディア」、「E メール」などのその他のチャネルがすぐ後に続いている。香港、シンガポール、インドネシアはそれぞれ、インスタント・メッセージ・アプリで詐欺に遭遇した人が母集団の 50% を超えている。台湾、フィリピン、シンガポール、ベトナム、中国、インドネシアでは、ソーシャル・メディアで詐欺に遭遇した人が母集団の 25% を超えている。日本、韓国、フィリピンでは、詐欺 E メールを受信した人が母集団の 25% に達している。香港とシンガポールは、電話、テキスト・メッセージ、インスタント・メッセージ・アプリといった 3 つの主要なチャネルすべてで、詐欺に遭遇した人が母集団の半数を超えている点で独特である。

一般的な詐欺のチャネル

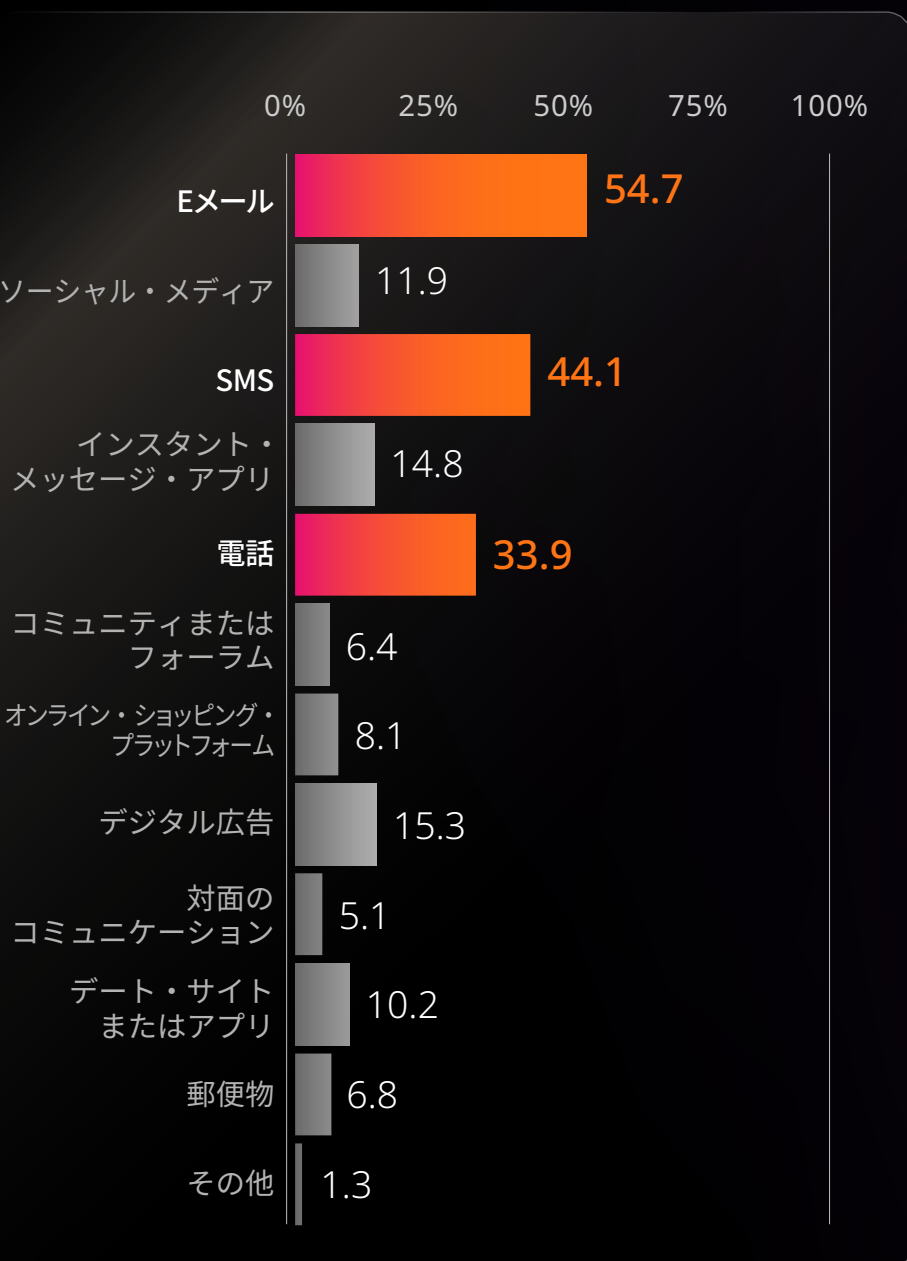
 台湾



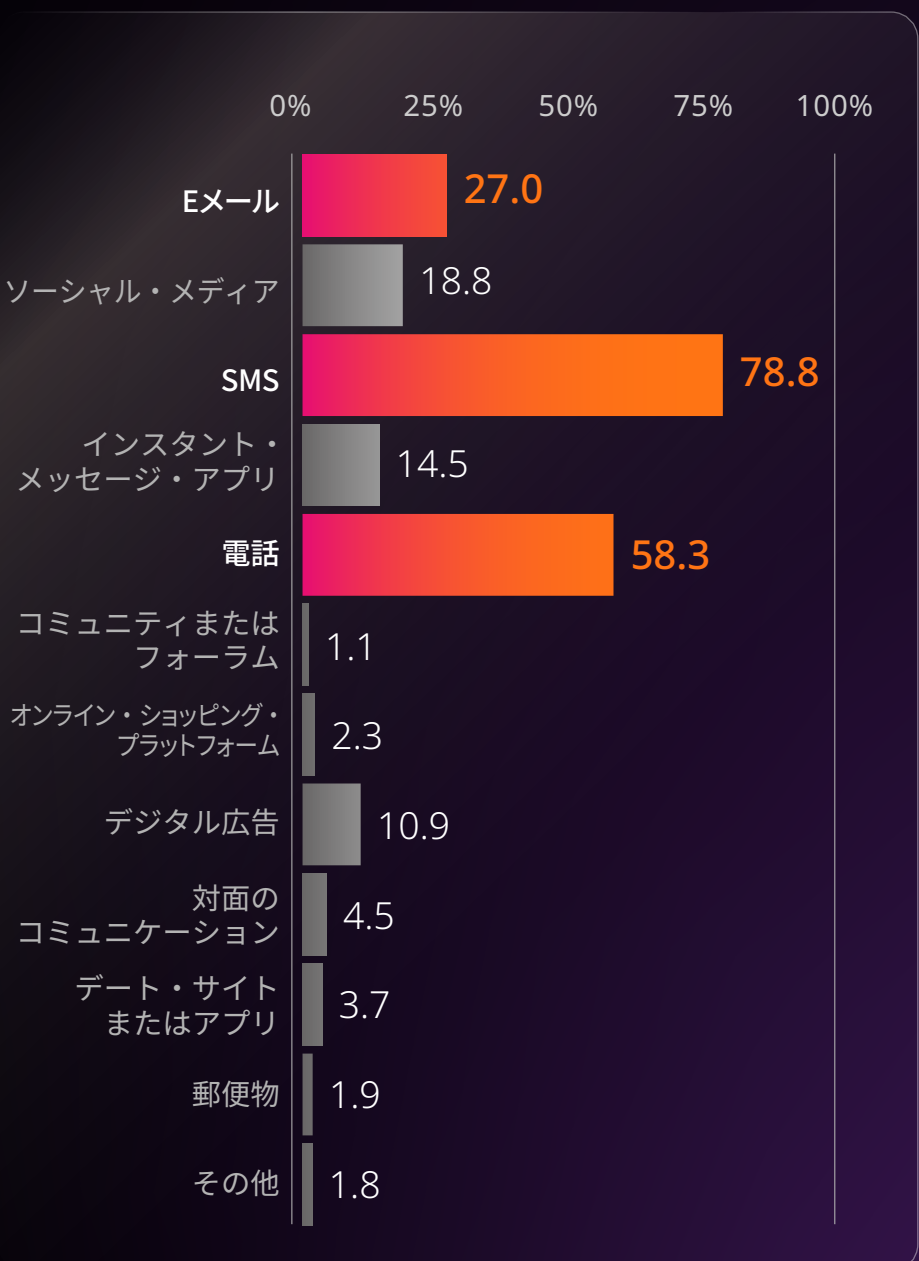
 タイ



 日本



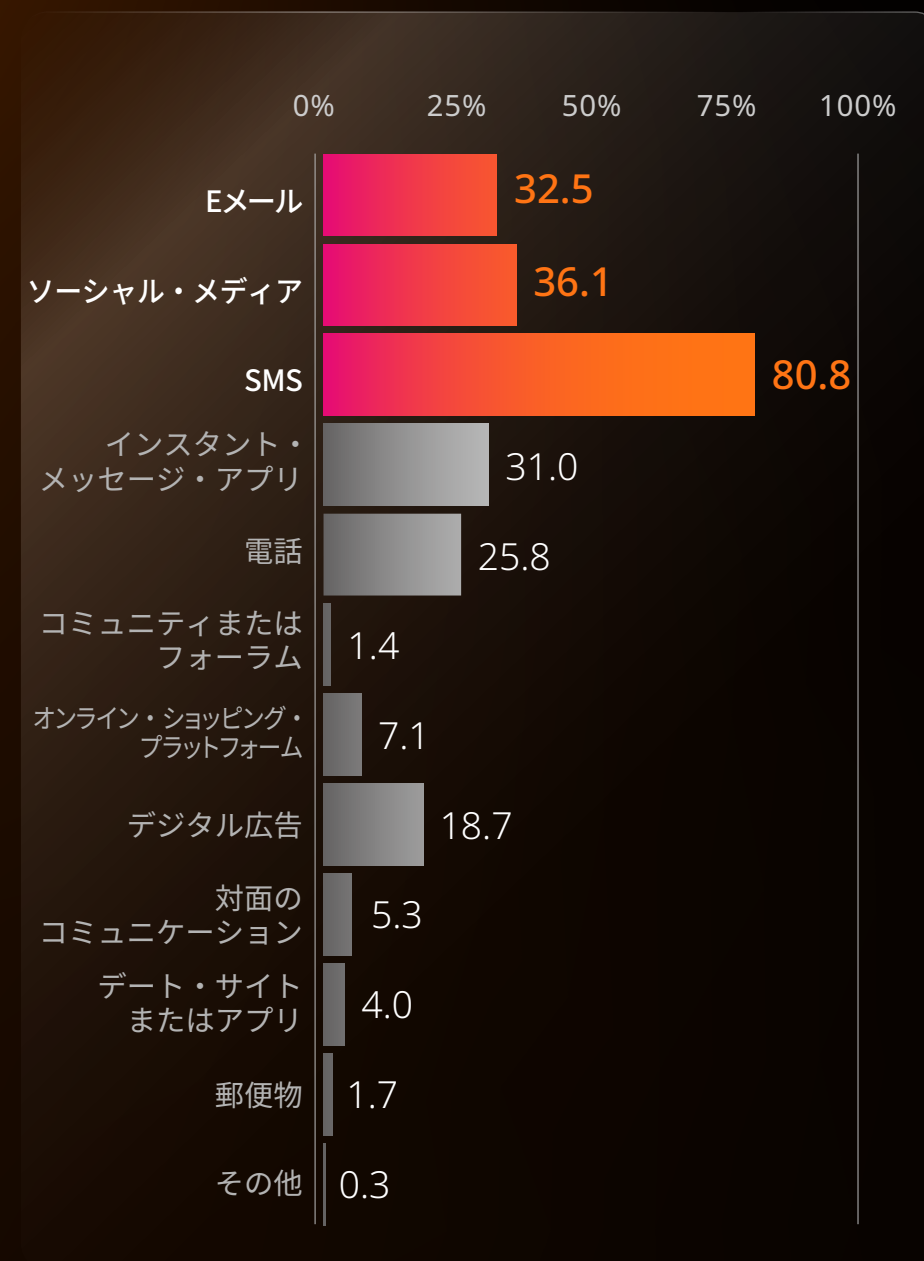
 韓国



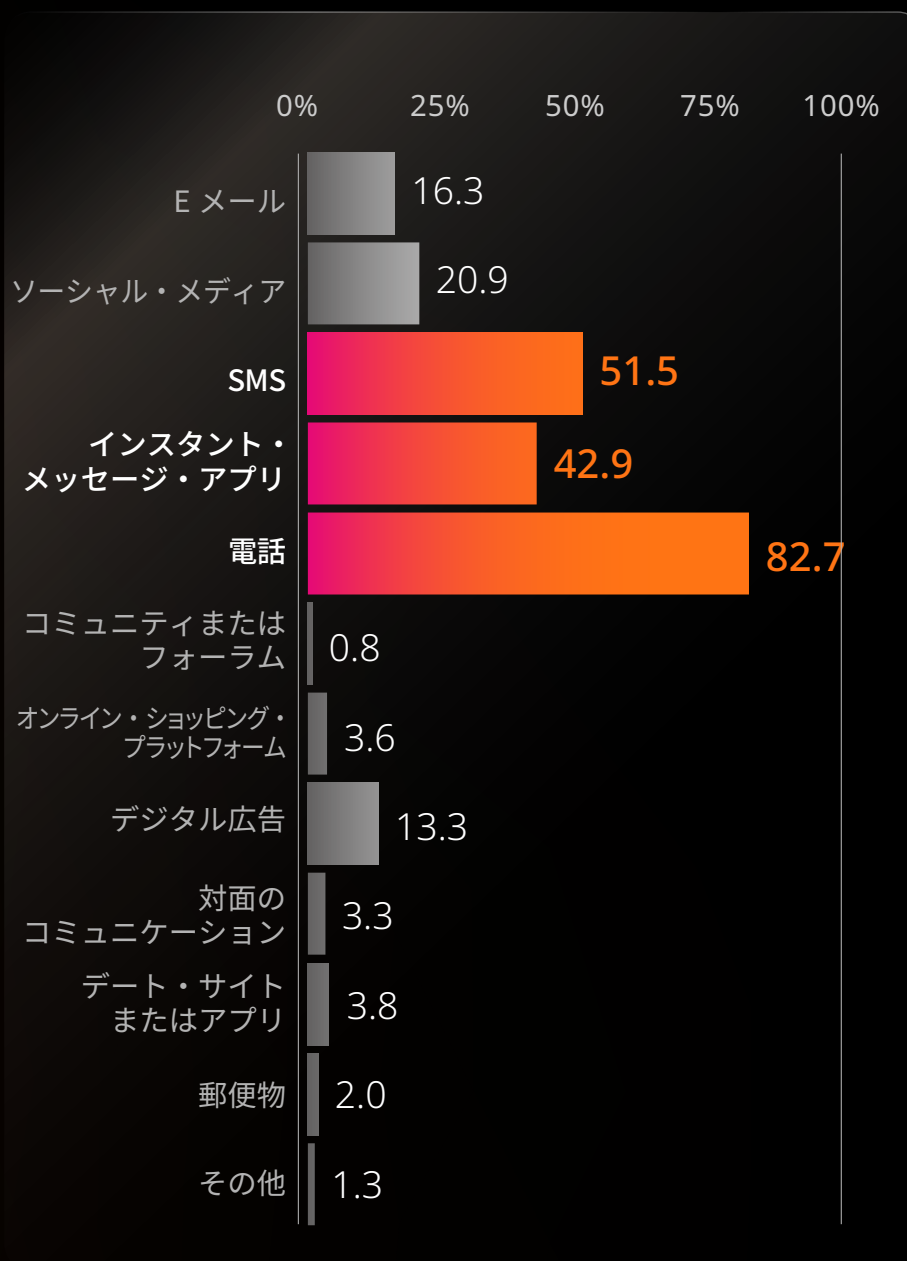
ソーシャル・メディア（Facebook、Instagram、TikTok など） / インスタント・メッセンジャ（WhatsApp、Telegram、LINE など） / オンライン・ショッピング・プラットフォーム（Amazon、Shopee など）

一般的な詐欺のチャネル

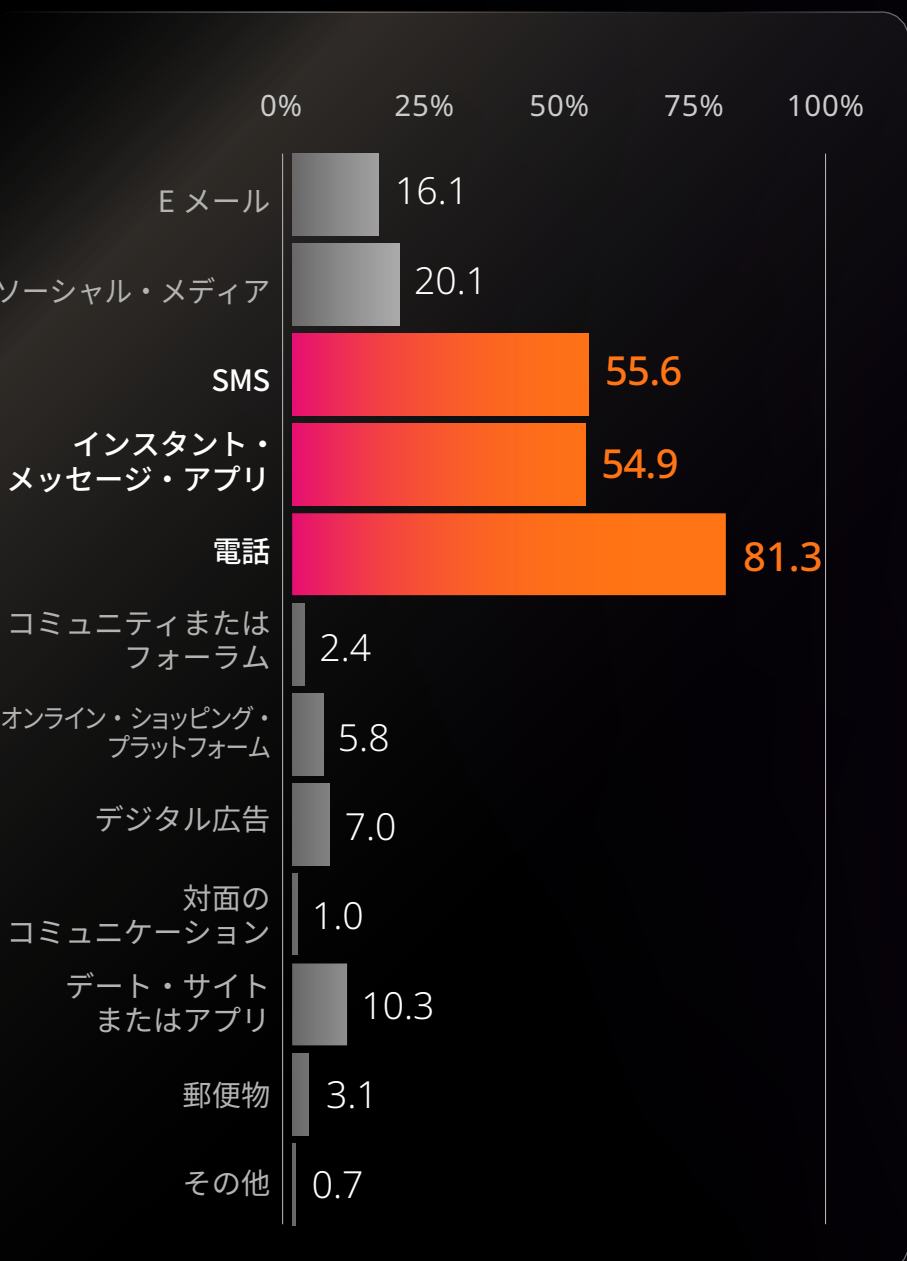
フィリピン



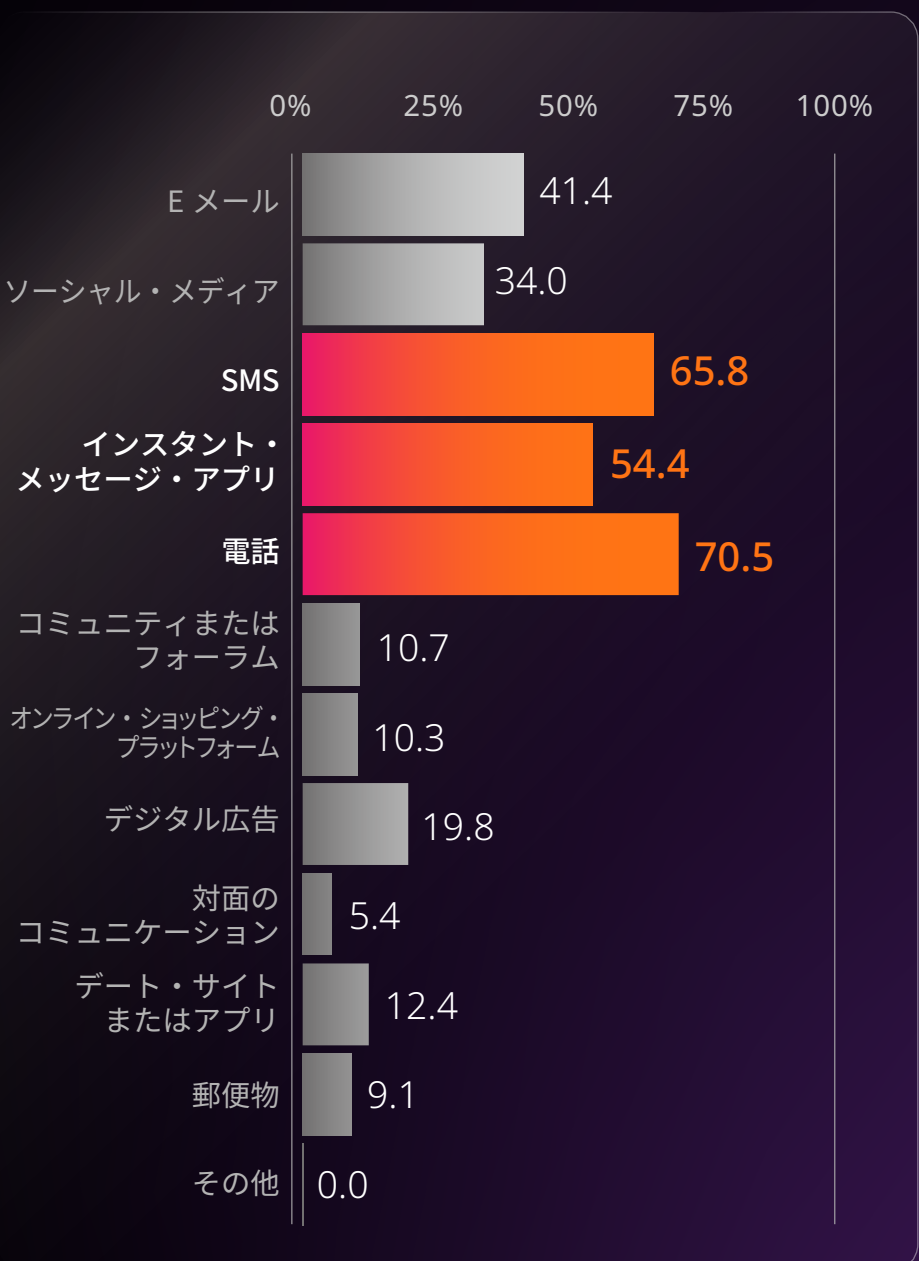
マレーシア



香港



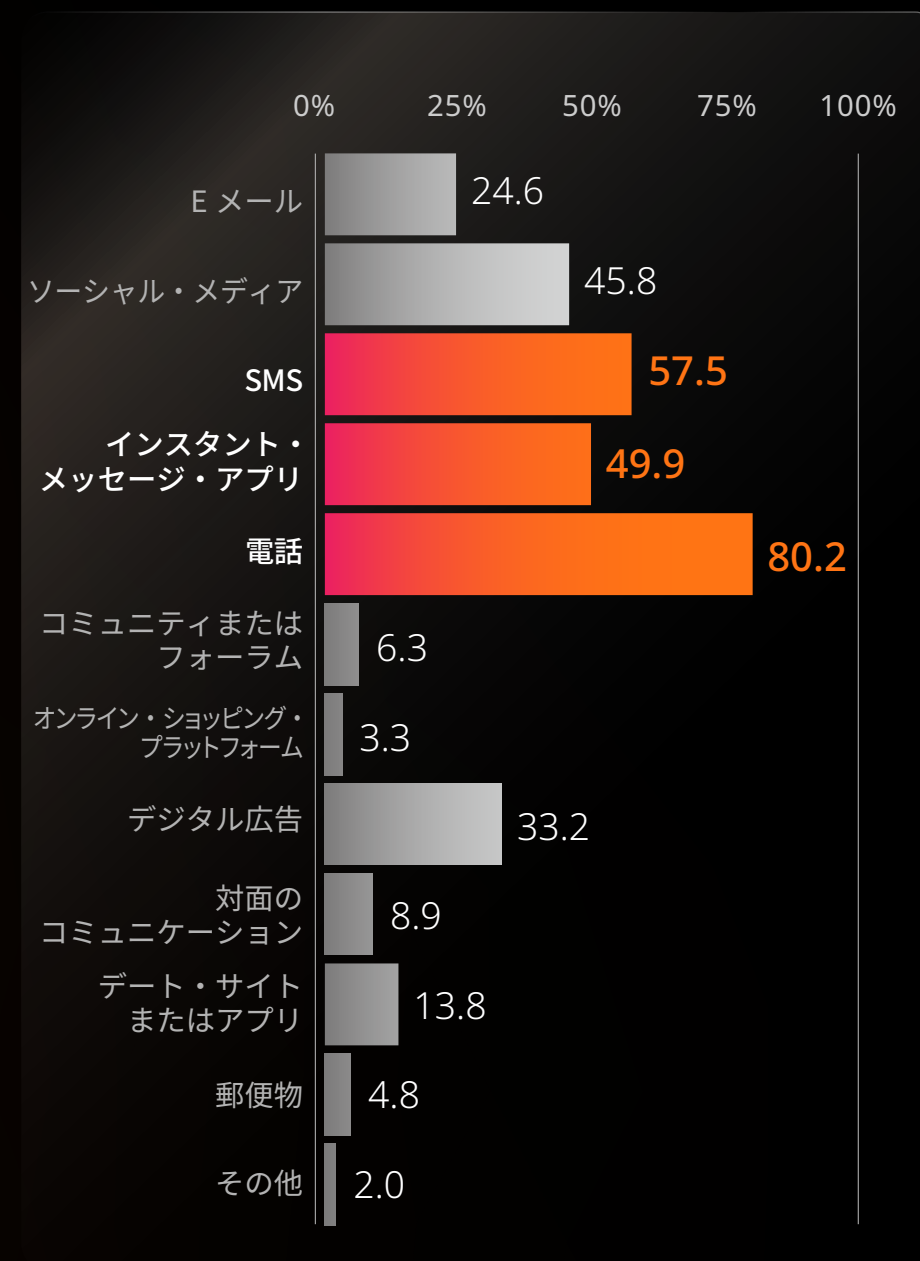
シンガポール



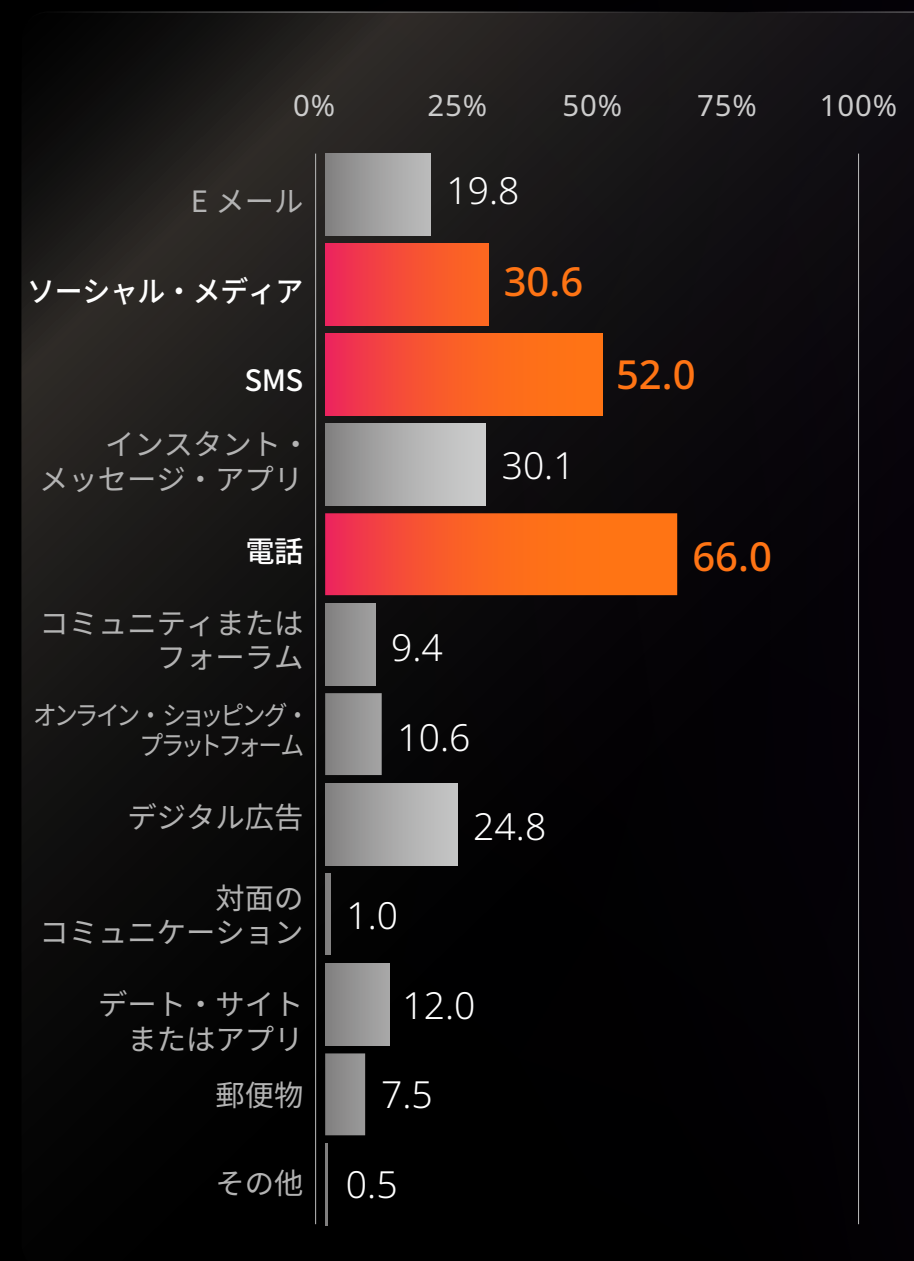
ソーシャル・メディア（Facebook、Instagram、TikTok など） / インスタント・メッセンジャ（WhatsApp、Telegram、LINE など） / オンライン・ショッピング・プラットフォーム（Amazon、Shopee など）

一般的な詐欺のチャネル

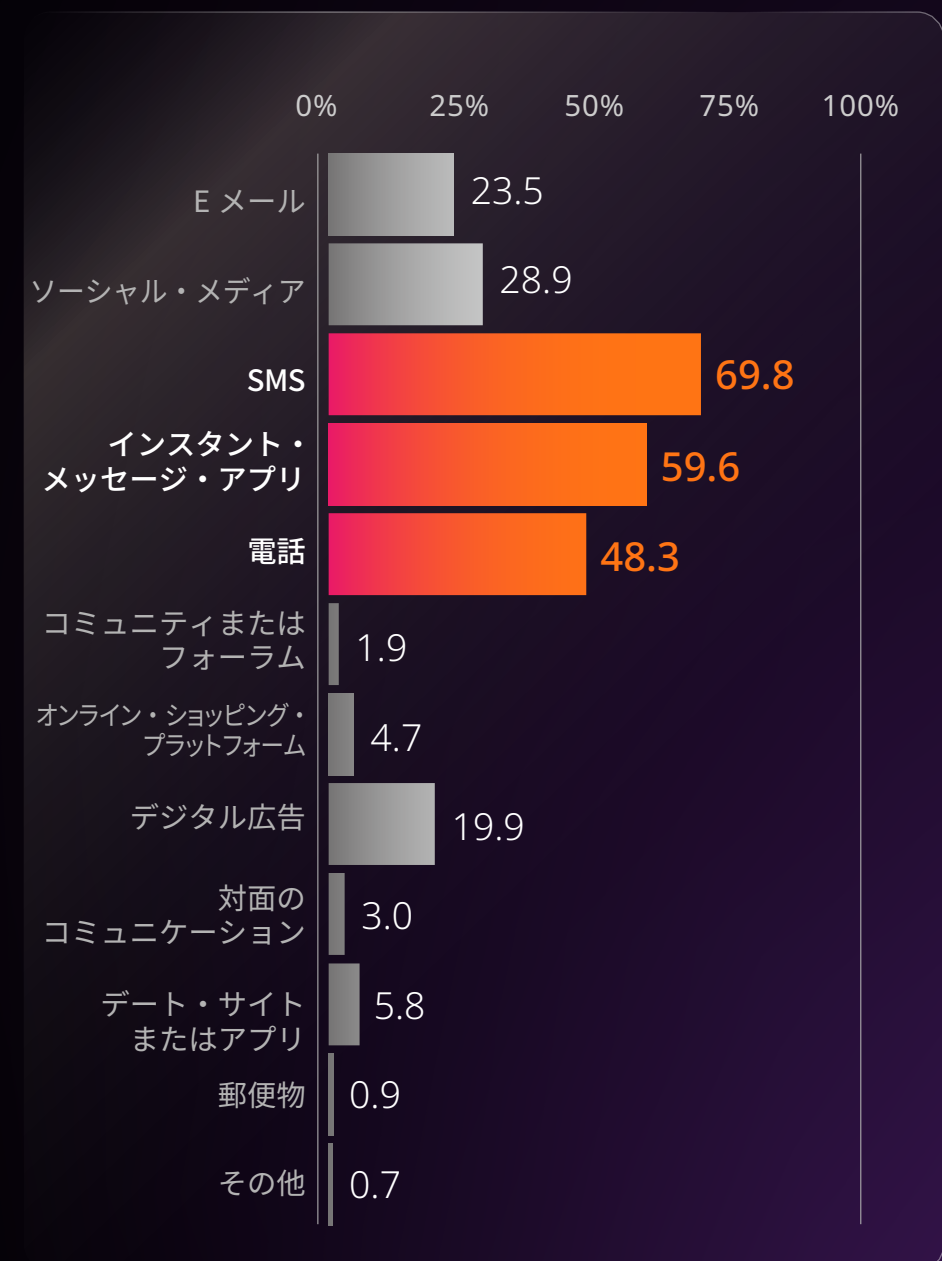
ベトナム



中国



インドネシア



ソーシャル・メディア（Facebook、Instagram、TikTok など） / インスタント・メッセンジャ（WhatsApp、Telegram、LINE など） / オンライン・ショッピング・プラットフォーム（Amazon、Shopee など）

詐欺のリスクが集まるデジタル・プラットフォーム

4

さまざまなアジア地域にわたり主要な詐欺チャネルを分析したところ、ソーシャル・メディア、インスタント・メッセージ・アプリ、フォーラム、e コマース・サイト、デジタル広告を含む、デジタル・プラットフォームが詐欺活動の温床になっていることが明らかになった。職業上の目的と娯楽目的の両方で、デジタル・コミュニケーションとソーシャル・メディアが蔓延する中、人々によるこれらのプラットフォームへの接続は増え続けているため、必然的に、詐欺の犠牲になるリスクは高まっている。これを受けて、GASA と Gogolook は、さまざまな地域でデジタル・プラットフォームを介して詐欺に遭遇した人々の割合を数値化し、各地域のリスク傾向が高い上位5つのプラットフォームを特定した。

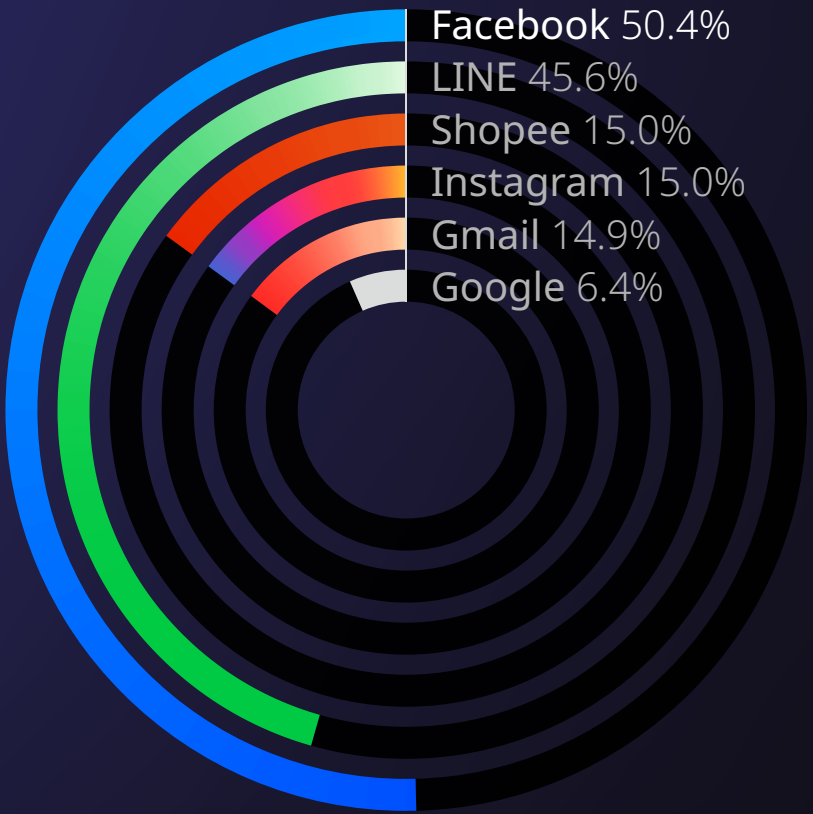
全般的に、Facebook は中国以外の全 10 地域で詐欺リスクに関連する上位 5 つのプラットフォームに含まれ、台湾(50.4%)、タイ(47.3%)、

フィリピン(72.3%)、ベトナム(71.5%)では最上位だった。インスタント・メッセージ・アプリに関しては、アジアで調査した各国で、詐欺が行われる顕著なコミュニケーション・プラットフォームであることが明らかになった。たとえば、WhatsApp は、マレーシア (61.3%)、香港(81.3%)、シンガポール(55.3%)、インドネシア(74.3%) で 1 位にランク付けされている。Telegram と LINE に関連するリスクは過小評価すべきでない。より若い年齢層に好まれている Instagram と TikTok が、それぞれリスク・ランキングに 7 回と 6 回登場していることは注目に値する。これは、より若い人々が詐欺の犠牲になる潜在的な傾向を示しており、若者を対象とした詐欺防止と教育プログラムを通じて早期に介入する必要性が強調されている。

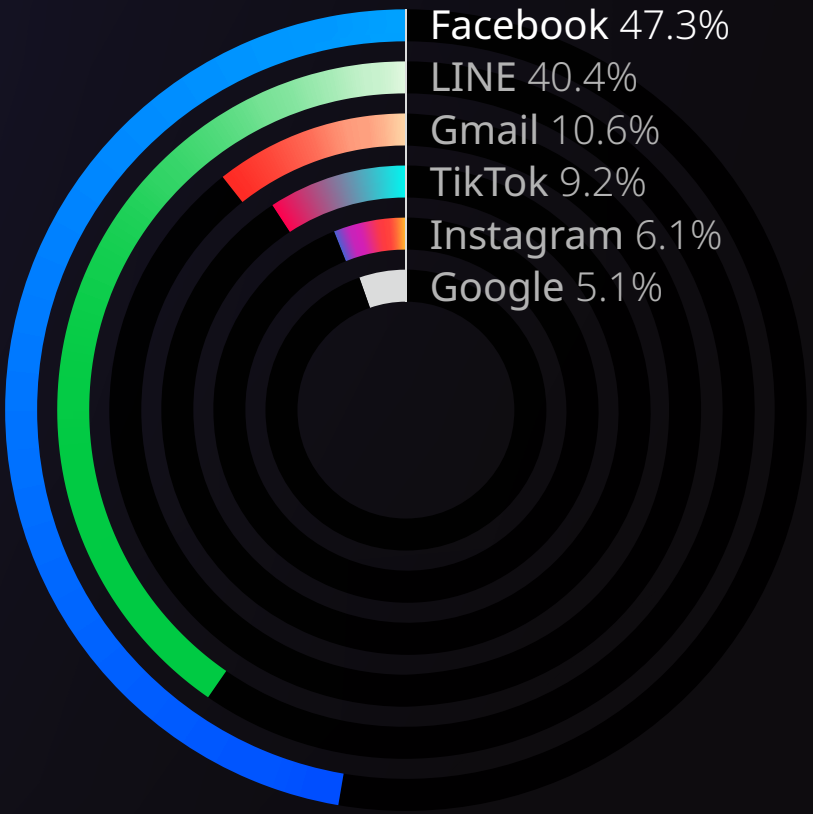


詐欺のリスクが集まる
デジタル・プラットフォーム
フォーム

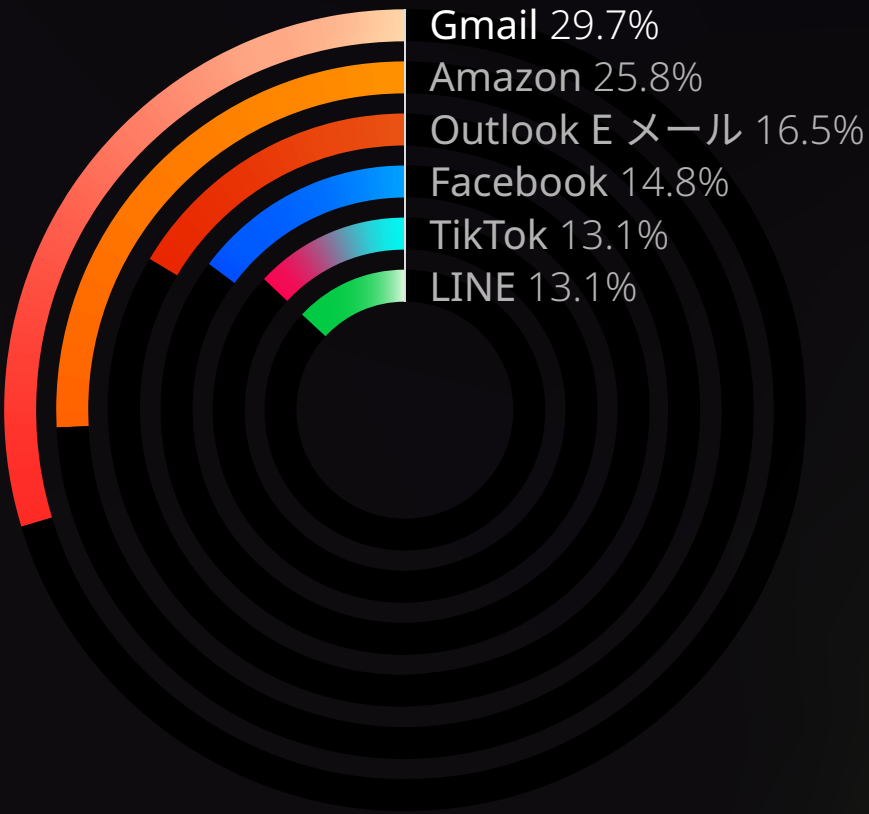
台湾



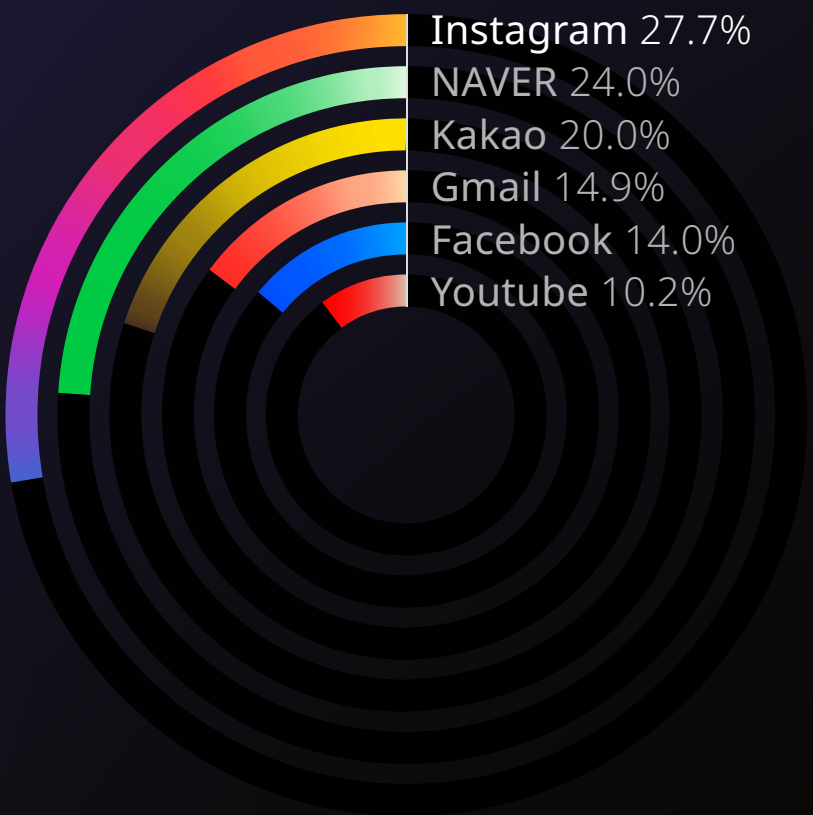
タイ



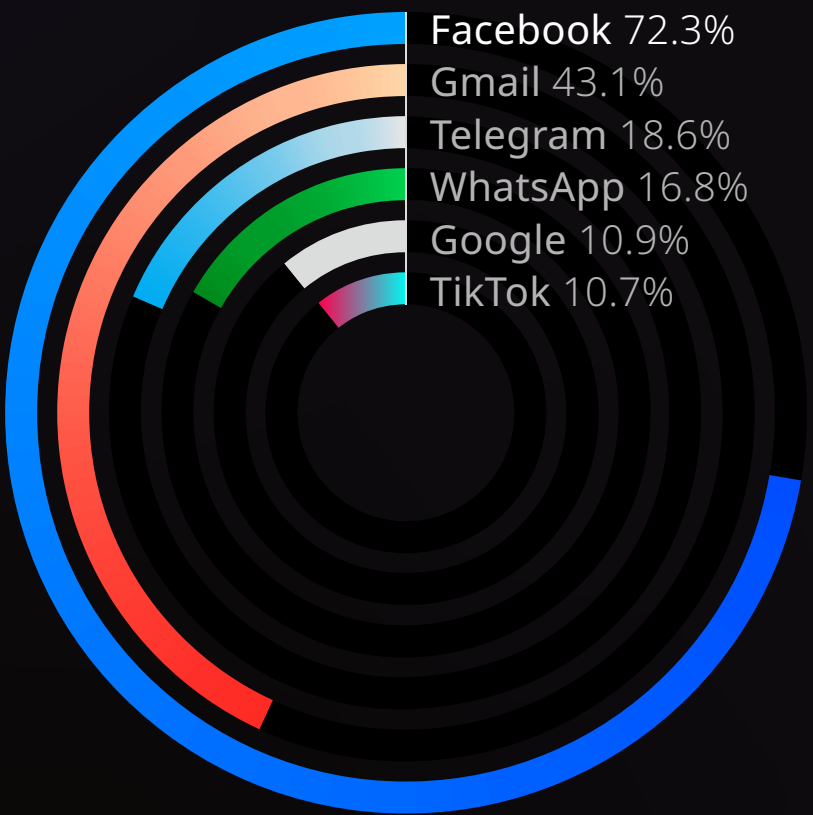
日本



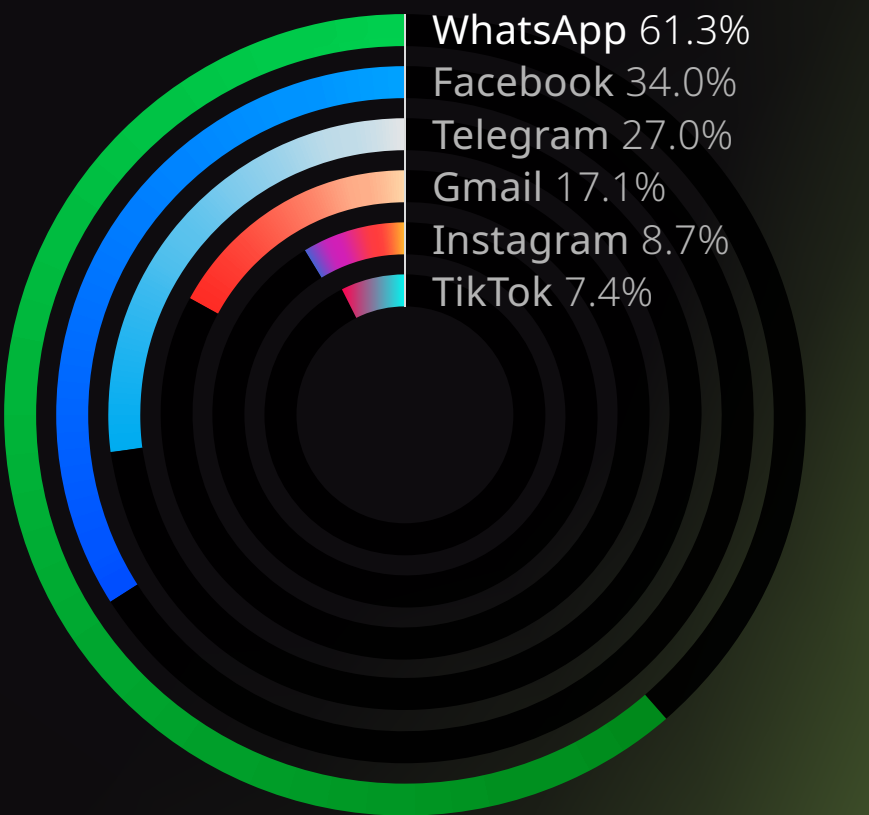
韓国



フィリピン

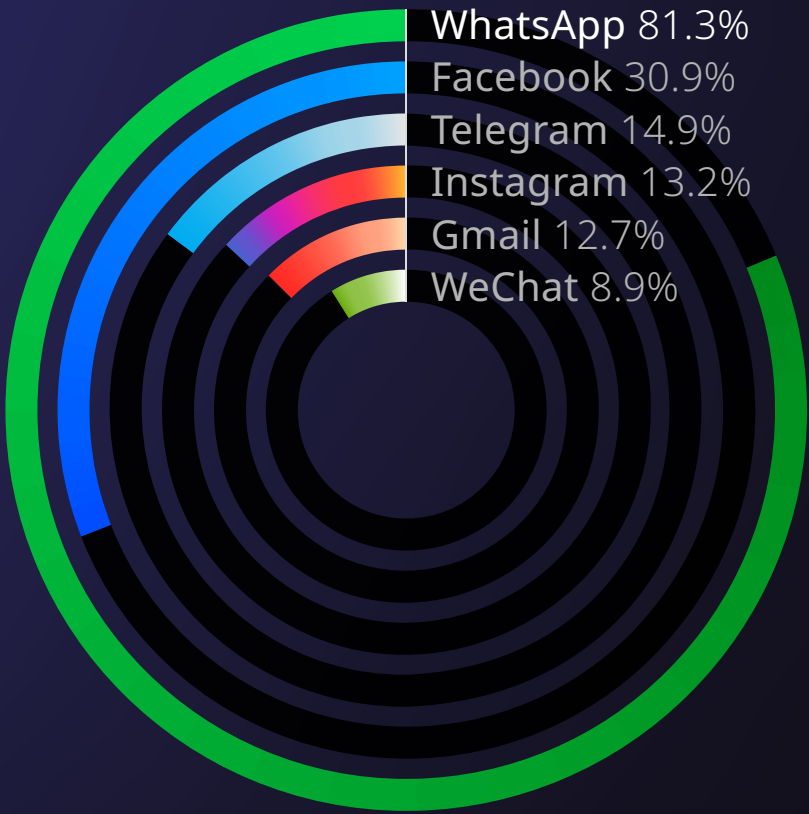


マレーシア

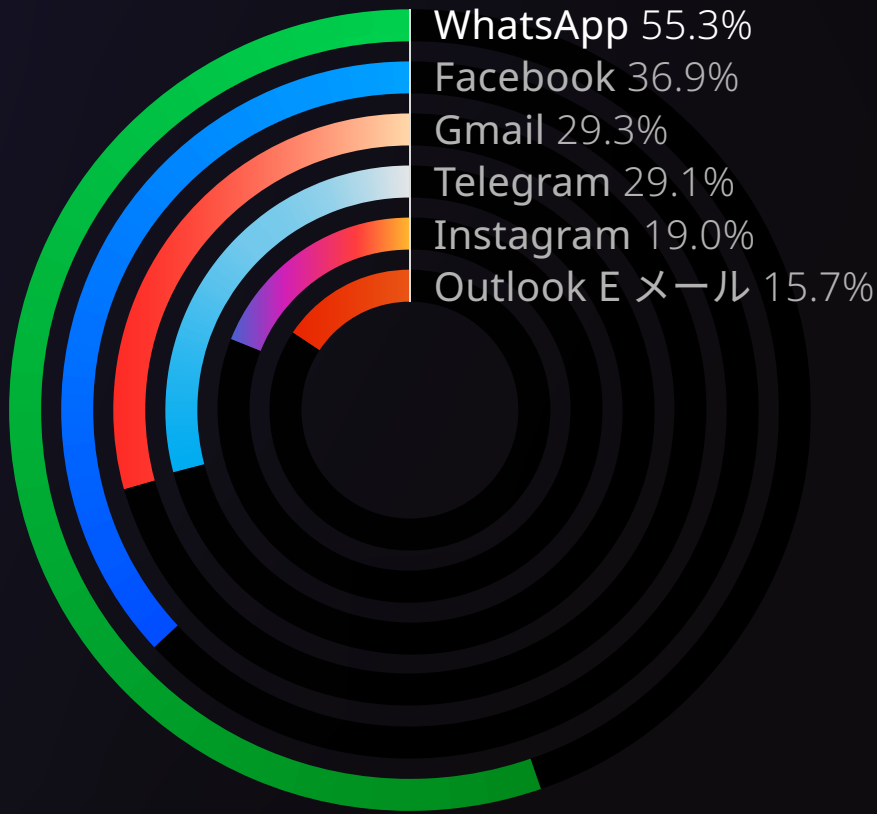


詐欺のリスクが集まる
デジタル・プラットフォーム
フォーム

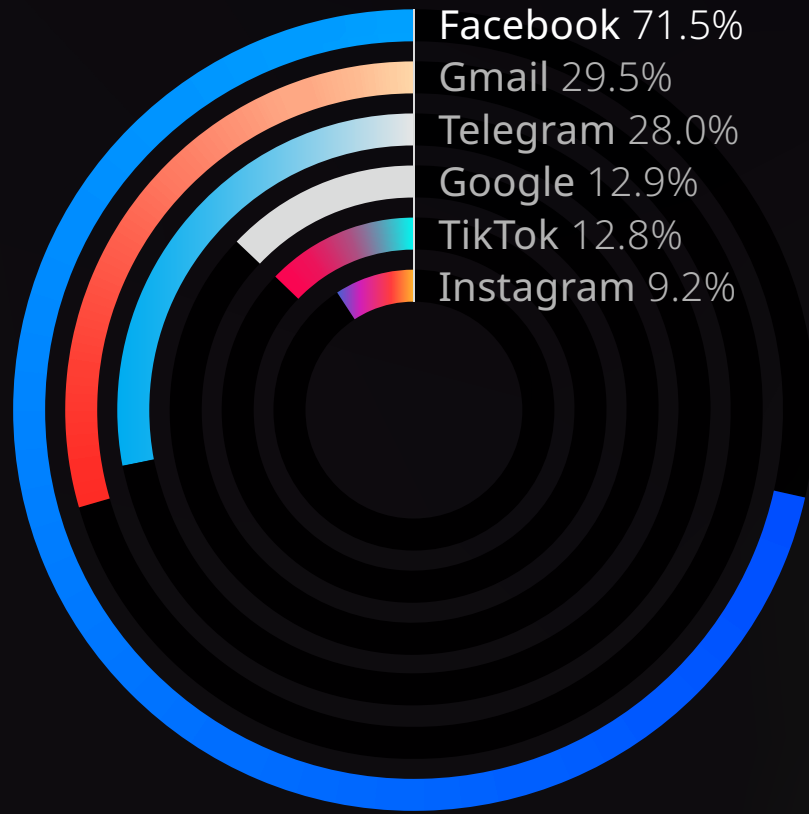
香港



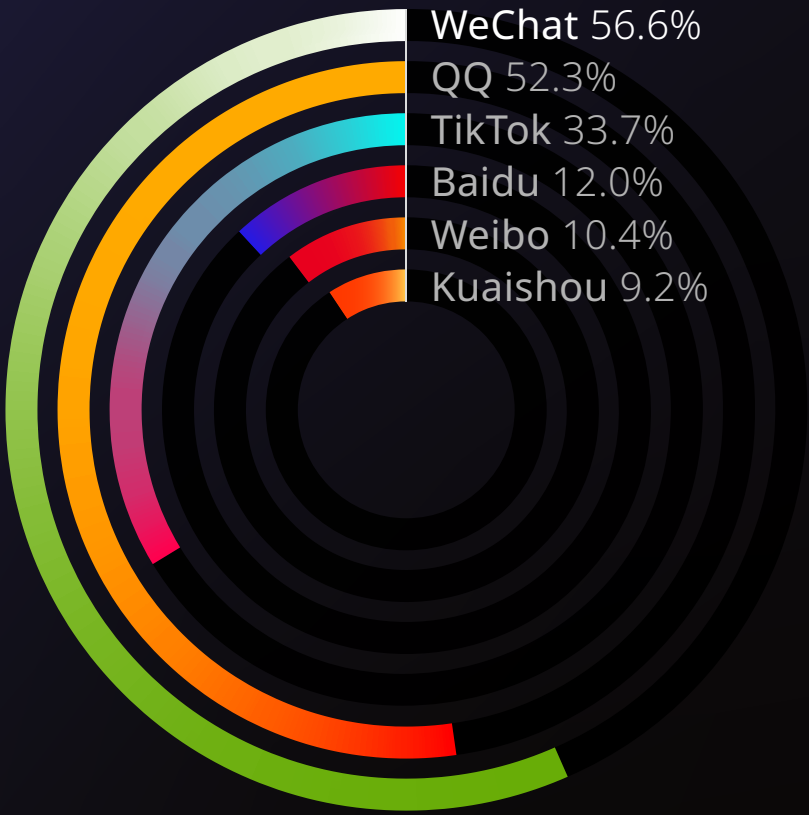
シンガポール



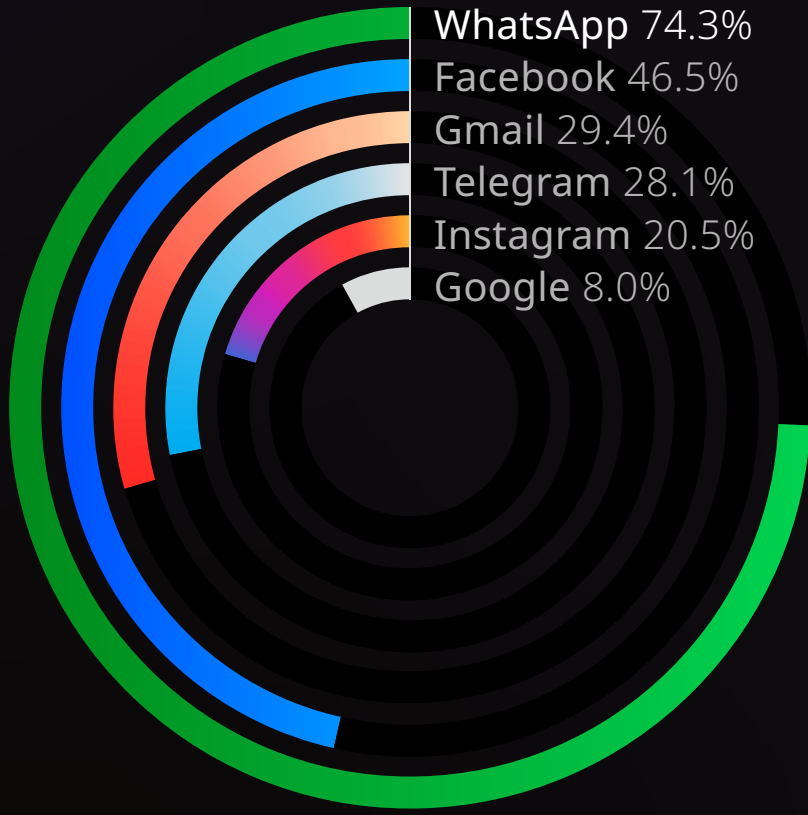
ベトナム



中国



インドネシア



主な詐欺のシナリオと手口

新しい詐欺テクノロジーとツールが迅速に進化し、世界的な分業が出現しているが、引き続き、詐欺のシナリオとスクリプトは、ローカル・ポリシー、人々の感情、言語、タイミングに合わせて「ローカライズ」されているに違いないと言える。防止方法の作成と意識の強化において政府、組織、企業をさらに支援するために、GASA と Gogolook は、共通する詐欺シナリオと方法のリストを作成してきた。それには、個人情報 の窃盗 / 詐欺、ショッピング詐欺、投資詐欺、政府 / 銀行職員のなりすまし、求人詐欺、宝くじ詐欺、友人および家族詐欺、不正請求詐欺、慈善詐欺が含まれる。このレポートでは、過去 1 年間の人々の詐欺に遭遇した率に基づいて詐欺をランク付けし、アジア内の異なる地域での詐欺シナリオのニュアンスに対する洞察を提供している。

個人情報の窃盗 / 詐欺は、台湾、日本、マレーシア、香港、シンガポールで、最も共通するタイプの詐欺である。台湾で最も頻繁に使用される詐欺方法には、不正請求詐欺、ショッピング詐欺、投資詐欺、政府 / 銀行職員のなりすましが含まれる。台湾の Criminal Investigation Bureau (刑事局) によると、投資詐欺は 4 番目にランク付けされているが、昨年の詐欺関連の経済的損失の 47% は投資詐欺に関連しており、このコンテキストでの平均経済的損失が大きいことを示している。日本で 3 番目にランク付けされた「友人および家族詐欺」には、一時的な貸付金、保釈金、身代金を要求

するために家族になりすました詐欺グループが関与している。これは、日本の高齢化社会で、高齢者が比較的影響を受け入れやすいことを反映しており、詐欺師はより容易に高齢者を標的にすることができる。将来的に、AI や Deepfake テクノロジーの進化により、人々が事件の真偽を見分けることはますます困難になっていくだろう。

タイ、フィリピン、中国では、オンライン・ショッピングの人気の高まりを受け、ショッピング関連の詐欺が蔓延しており、それが最も深刻なタイプの詐欺となっている。「慈善詐欺」の増加傾向には、非営利組織になりすまし、不十分な寄付金や間違った支払い手続などを口実にして人々をだます手法が含まれる。この形の詐欺は、すでにインドネシア (29.7%)、シンガポール (16.7%)、中国 (16.1%) で広がってきている。



5

主な詐欺の シナリオと手口



個人情報窃盗

クレジットカード、口座、ソーシャル・メディアのアカウント、Eメールなどの不正利用



ショッピング詐欺

支払い後に商品が出荷されない、または異なった商品が配達される



投資詐欺

高額のリターンを約束して被害者に資金援助を依頼する



政府 / 銀行詐欺

政府 / 銀行になりすまして支払い情報または個人情報を聞き出す



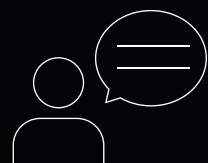
求人詐欺

求人と見せかけて手数料の要求、または個人情報を聞き出す



宝くじ詐欺

宝くじの当選と見せかけて手数料または個人情報を要求する



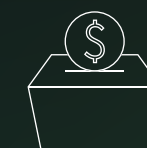
家族 / 親戚詐欺

親戚になりすましてお金を借りたり、個人情報を聞き出す



不正請求詐欺

請求書に問題があると思せかけて支払いを要求する



慈善詐欺

慈善団体を名乗り、「システム・エラー」を理由に送金を依頼する

主な詐欺の シナリオと手口

 台湾

1位	22.2%	個人情報窃盗
2位	13.4%	不正請求詐欺
3位	11.7%	ショッピング詐欺
4位	11.6%	投資詐欺
5位	9.7%	政府 / 銀行詐欺

 タイ

1位	17.9%	ショッピング詐欺
2位	15.2%	個人情報窃盗
3位	9.1%	投資詐欺
4位	9.1%	不正請求詐欺
5位	8.8%	政府 / 銀行詐欺

 日本

1位	30.0%	個人情報窃盗
2位	21.7%	投資詐欺
3位	20.8%	家族 / 親戚詐欺
4位	17.4%	宝くじ詐欺
5位	16.1%	ショッピング詐欺

 韓国

1位	13.3%	投資詐欺
2位	9.5%	個人情報窃盗
3位	7.4%	政府 / 銀行詐欺
4位	5.7%	求人詐欺
5位	4.9%	家族 / 親戚詐欺

 フィリピン

1位	35.9%	ショッピング詐欺
2位	29.0%	投資詐欺
3位	22.9%	宝くじ詐欺
4位	17.8%	求人詐欺
5位	17.7%	個人情報窃盗

 マレーシア

1位	15.7%	個人情報窃盗
2位	15.3%	ショッピング詐欺
3位	15.1%	投資詐欺
4位	12.3%	政府 / 銀行詐欺
5位	10.7%	求人詐欺

主な詐欺の シナリオと手口



香港

1位	15.6%	個人情報窃盗
2位	12.0%	政府 / 銀行詐欺
3位	10.1%	ショッピング詐欺
4位	8.9%	宝くじ詐欺
5位	7.0%	投資詐欺



シンガポール

1位	24.6%	個人情報窃盗
2位	18.0%	求人詐欺
3位	17.7%	ショッピング詐欺
4位	17.5%	投資詐欺
5位	16.7%	慈善詐欺



ベトナム

1位	12.5%	投資詐欺
2位	12.3%	ショッピング詐欺
3位	12.2%	個人情報窃盗
4位	9.0%	求人詐欺
5位	4.8%	慈善詐欺



中国

1位	27.2%	ショッピング詐欺
2位	25.8%	個人情報窃盗
3位	17.6%	宝くじ詐欺
4位	17.1%	不正請求詐欺
5位	16.1%	慈善詐欺



インドネシア

1位	30.4%	投資詐欺
2位	29.7%	慈善詐欺
3位	26.0%	ショッピング詐欺
4位	21.0%	宝くじ詐欺
5位	20.5%	家族 / 親戚詐欺

詐欺の犠牲になった主な理由

詐欺に遭遇した時の人々の考え方と即座の反応の結果が、このような罠に陥った理由であると考えられるかどうかをさらに理解するために、GASA と Gogolook はいくつかの共通する理由を特定した。それらには、「詐欺活動を認識できなかった」、「詐欺師の要求に素早く応じてしまった」、「詐欺を見分ける十分な知識がなかった」、「提示されたインセンティブに魅了された」、「詐欺に関する不安があるにもかかわらずリスクをとることを選択した」、「友人や家族を過度に信頼した」といったことが含まれる。これらの要因は、アジアの 11 地域での詐欺被害者を含む調査を通じて統計的に分析された。

これらのすべての地域で、「詐欺活動を認識できなかった」が、被害者が詐欺にあったと認めた主な理由だった。日本とマレーシアでは、「詐欺を見分ける十分な知識がなかった」ために犠牲になったと認めた人々の割合が比較的高く、関連当局に

より強力な継続的な詐欺防止教育が必要であることが強調された。

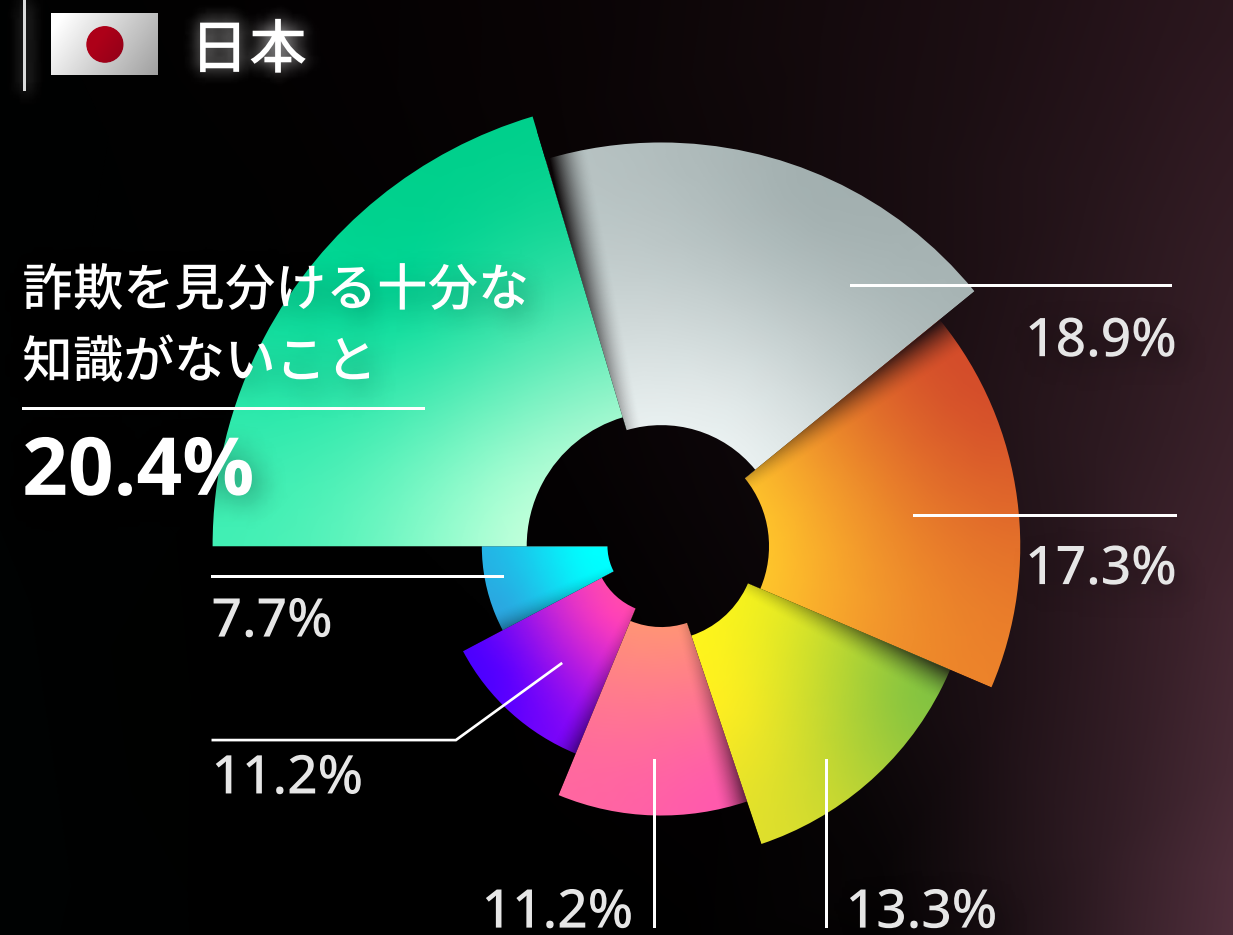
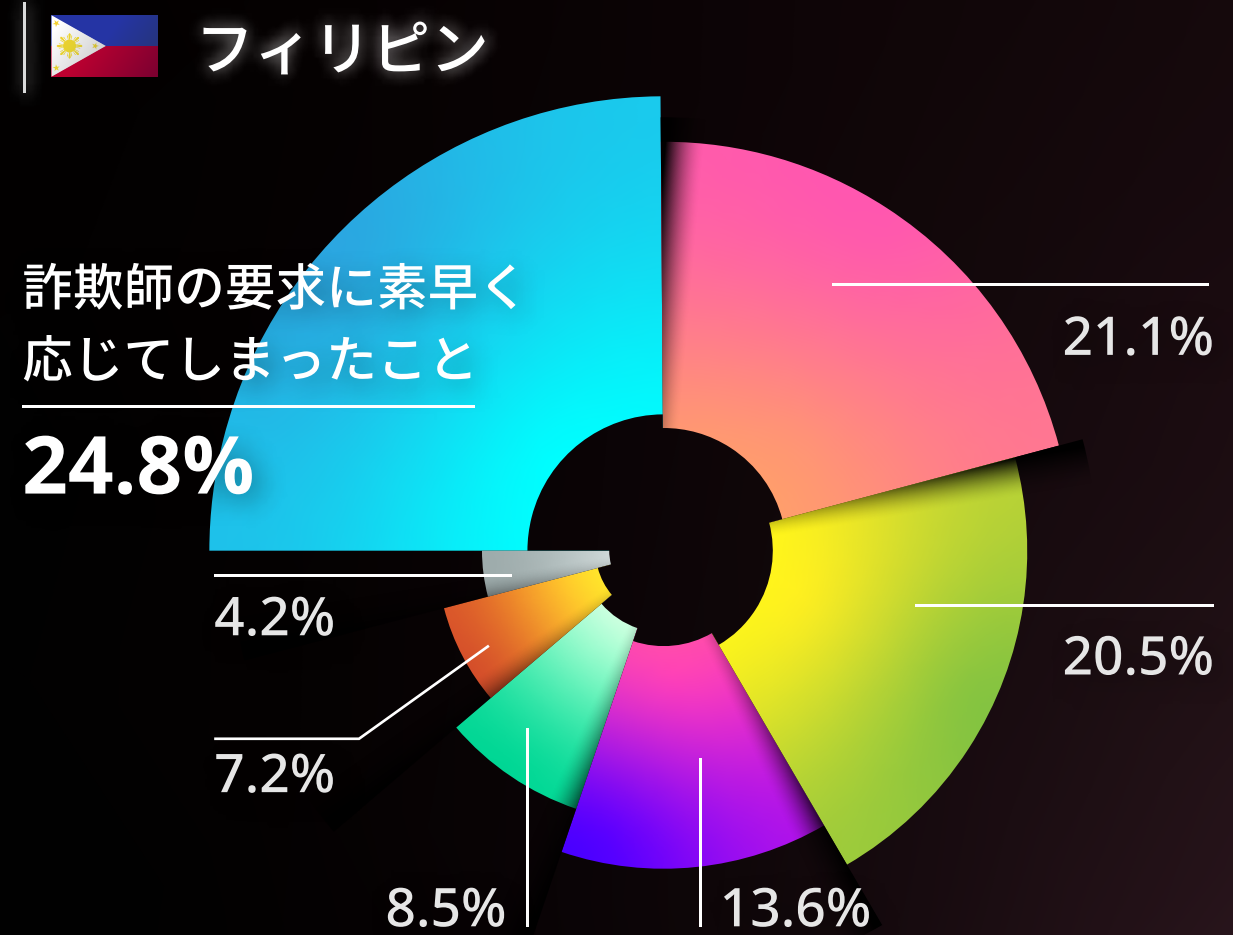
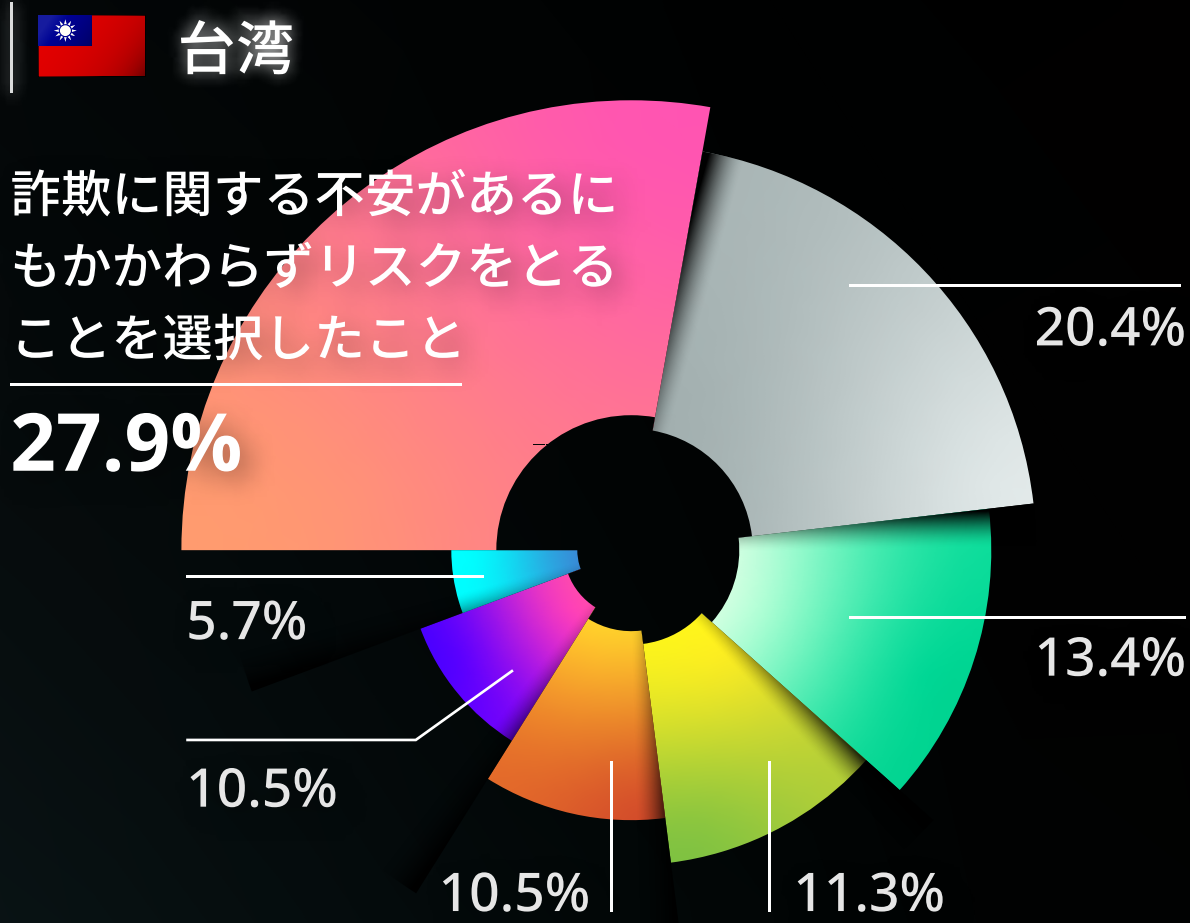
詐欺師は、「パニック」や「貪欲」といった人間の感情を巧みに利用して物語を作り上げることに熟達している。調査では、タイ、フィリピン、シンガポール、ベトナム、インドネシアの人口の 20% 以上が、「提示されたインセンティブに魅了された」ためにだまされたと述べている。よくあるシナリオは、e コマース・サイトで大幅割引商品を購入したが、後から偽物やまったく別の品物を受け取るというものだ。

6



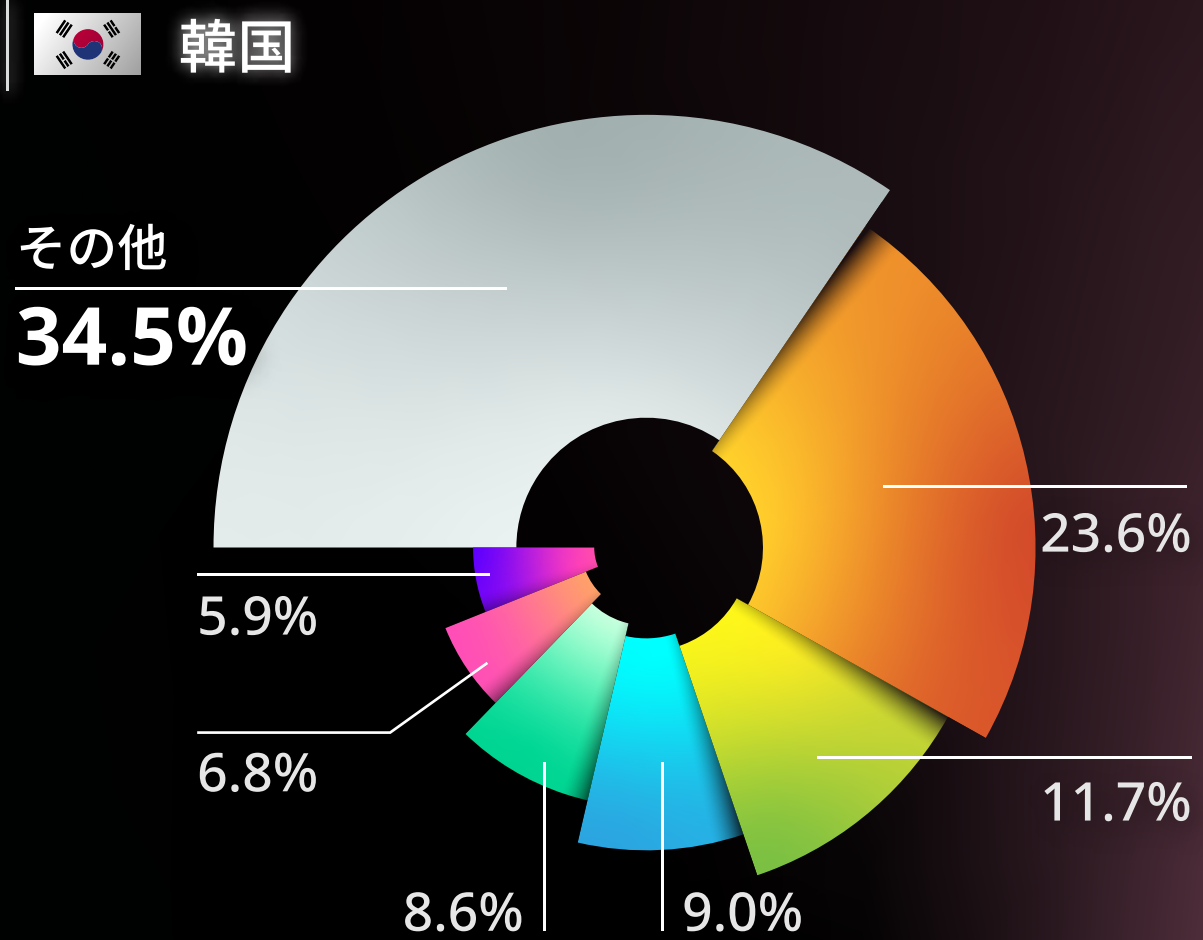
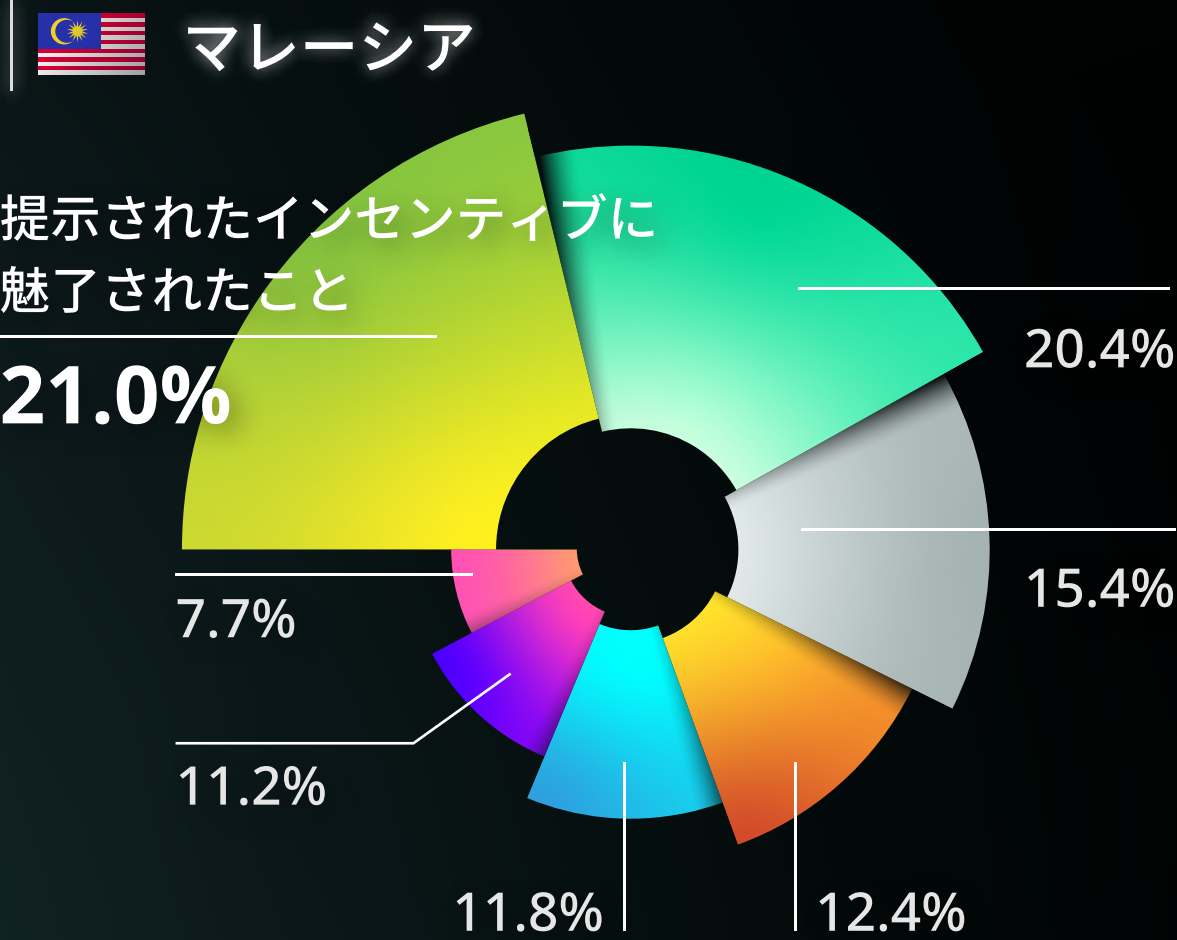
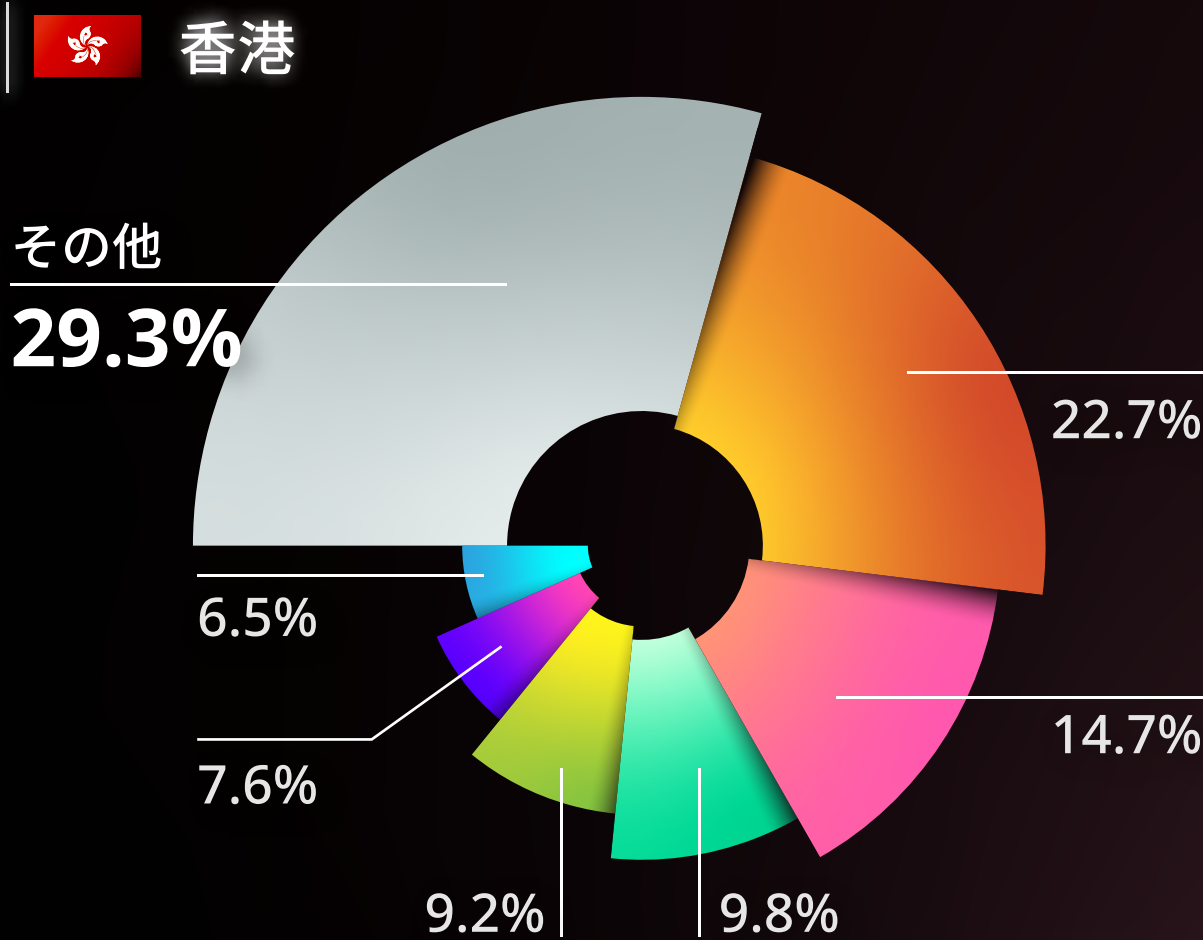
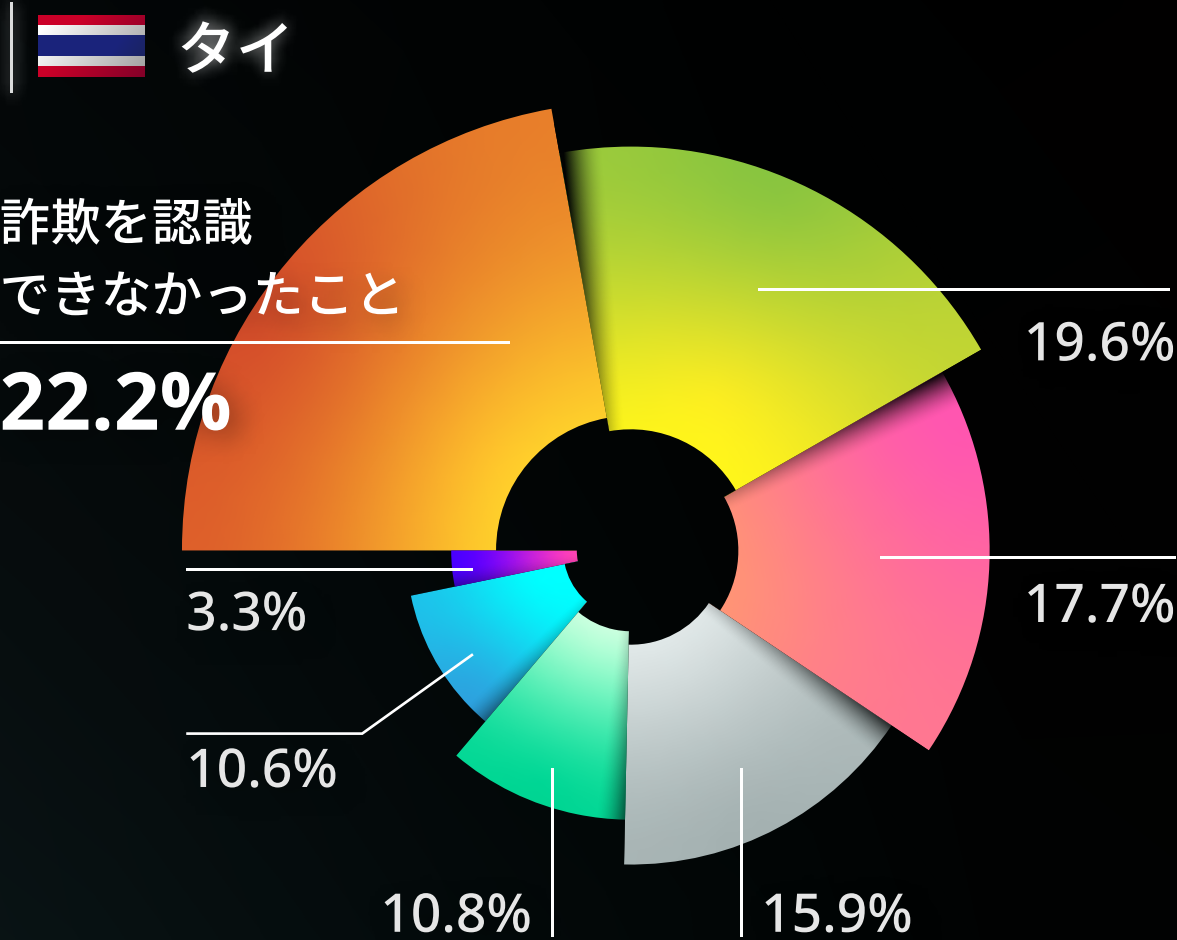
詐欺の犠牲になった 主な理由

- 詐欺を認識できなかったこと
- 詐欺師の要求に素早く応じてしまったこと
- 詐欺を見分ける十分な知識がないこと
- 提示されたインセンティブに魅了されたこと
- 詐欺に関する不安があるにもかかわらずリスクをとることを選択したこと
- 友人や家族を過度に信頼したこと
- その他



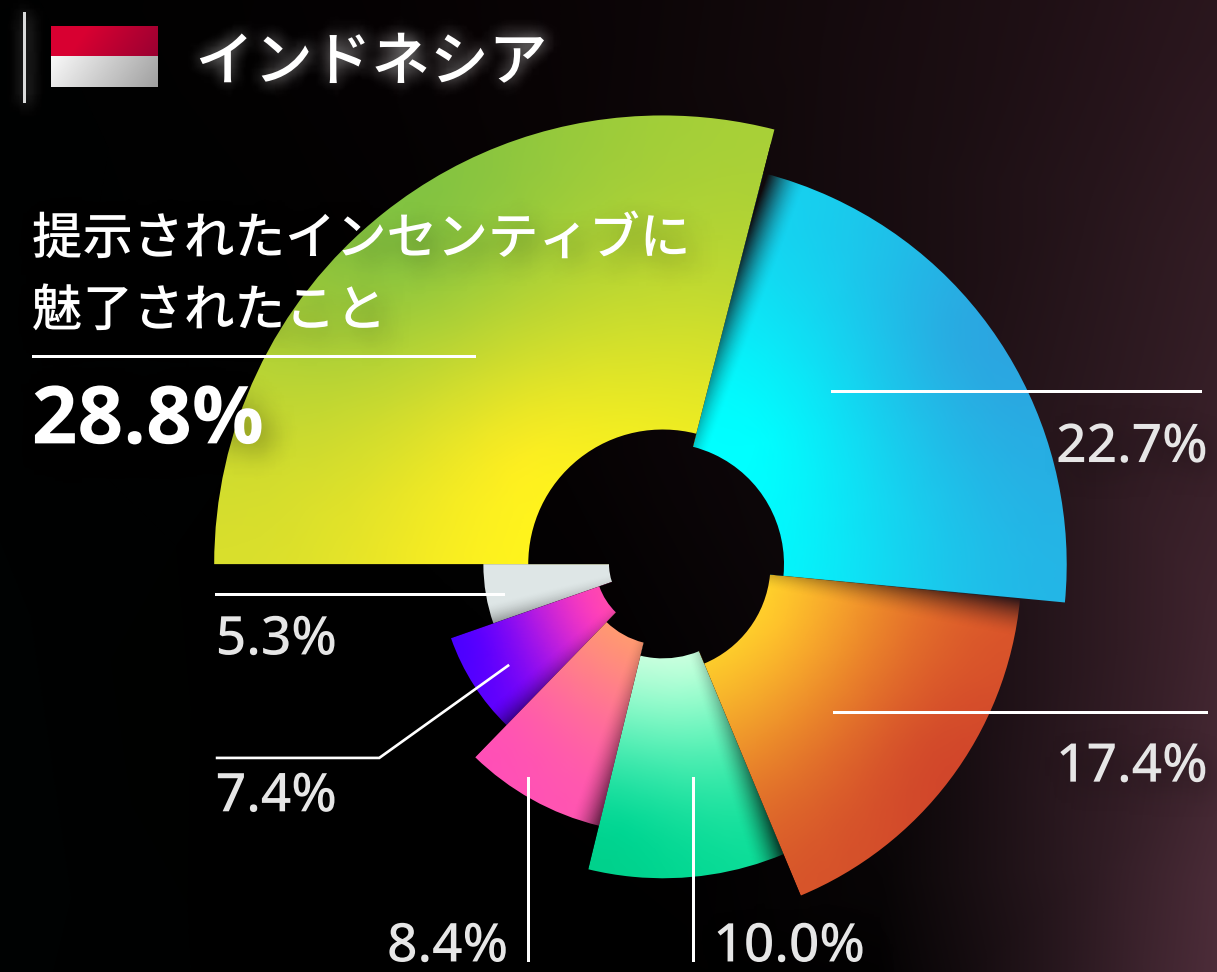
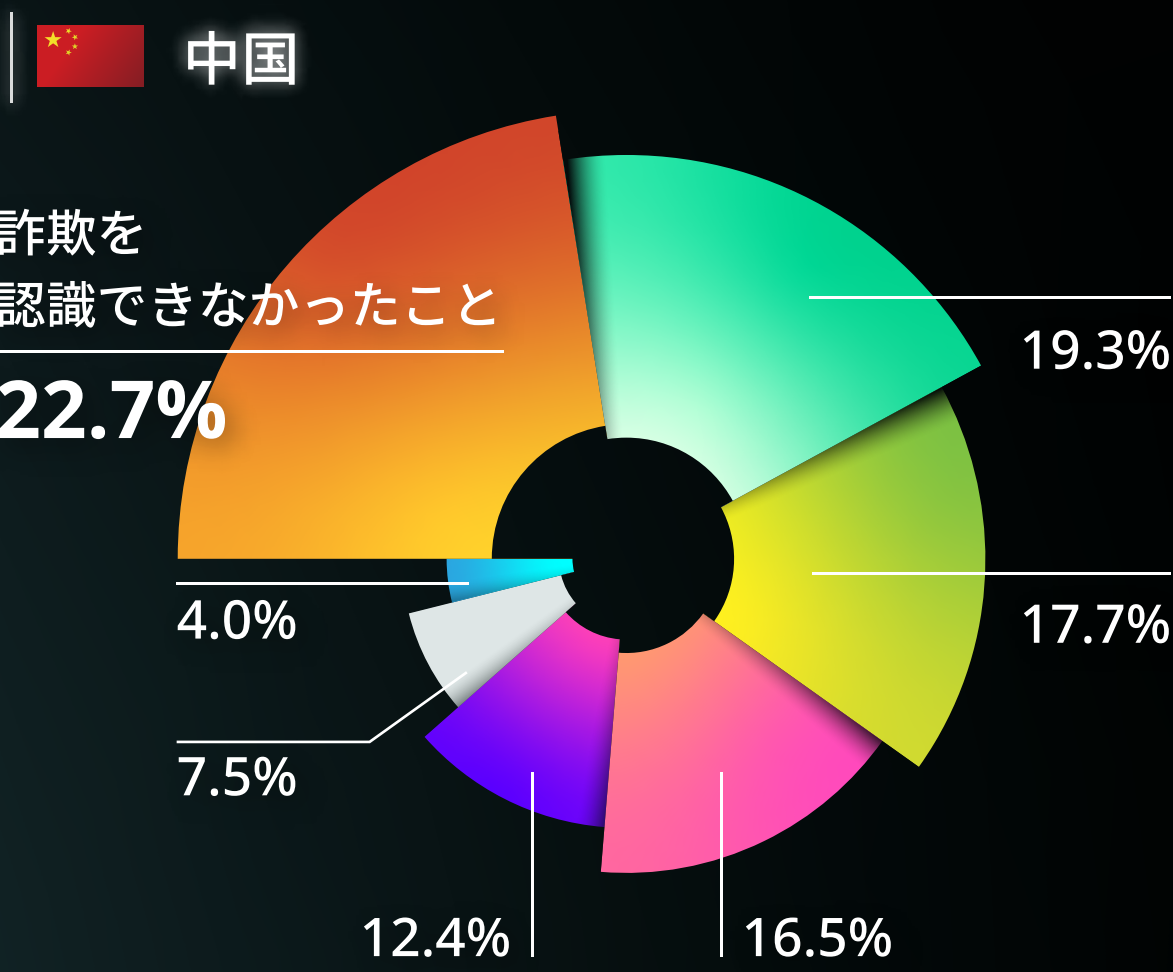
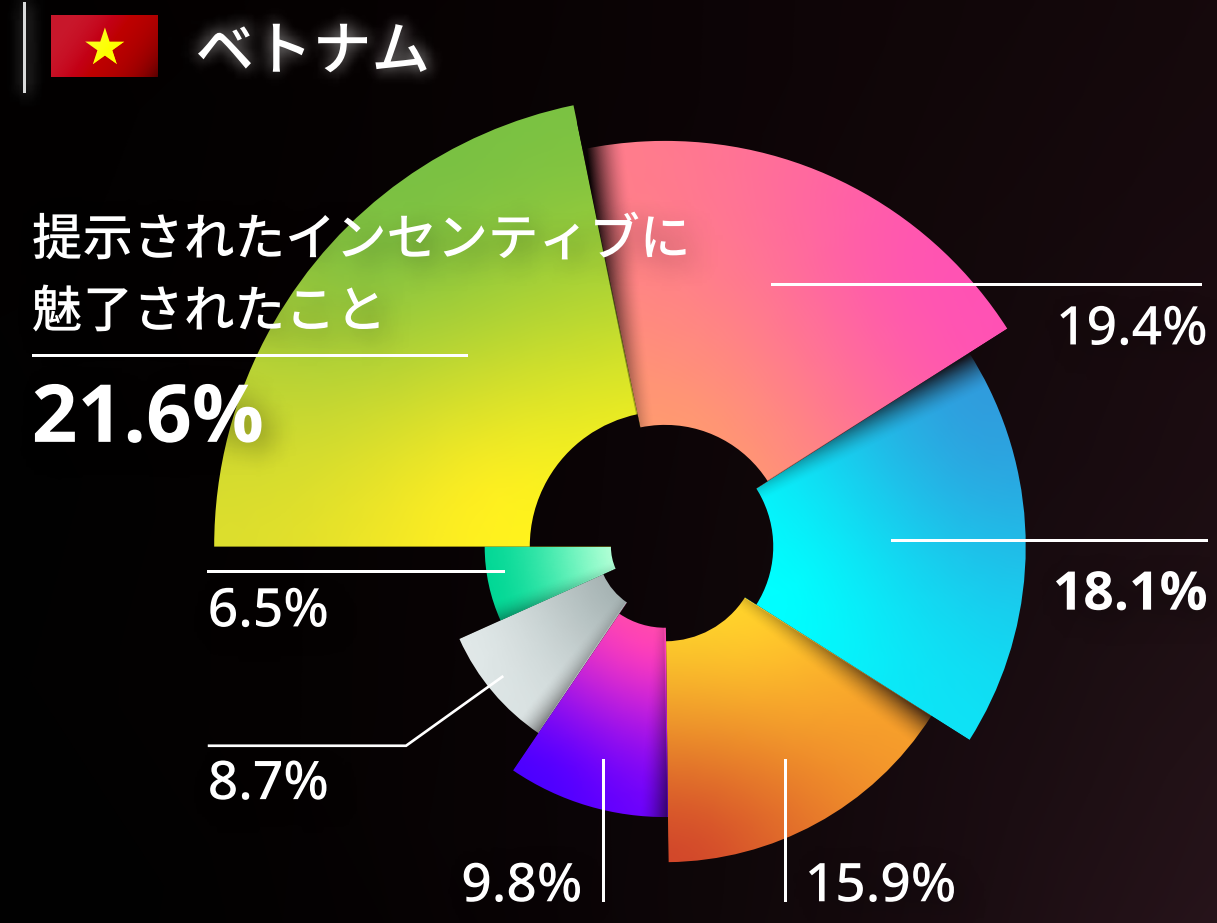
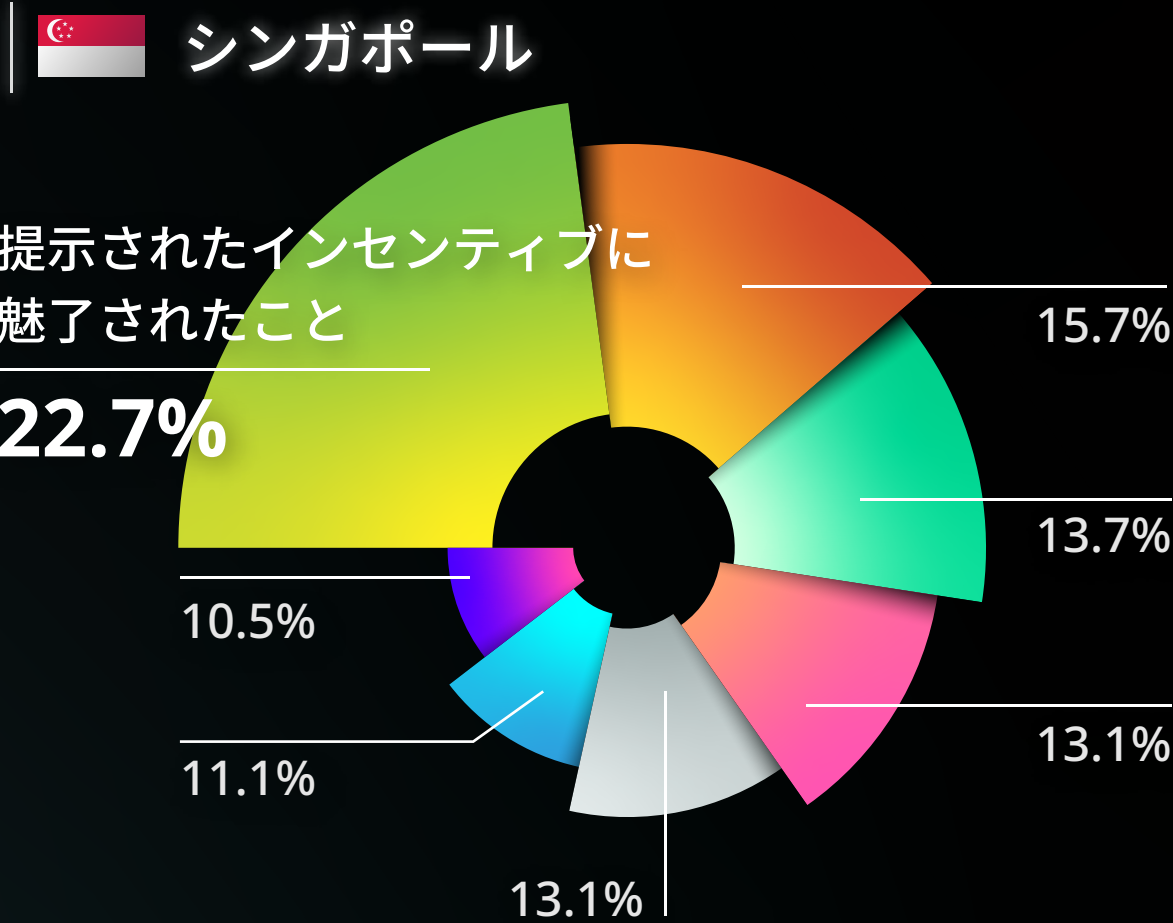
詐欺の犠牲になった 主な理由

- 詐欺を認識できなかったこと
- 詐欺師の要求に素早く応じてしまったこと
- 詐欺を見分ける十分な知識がないこと
- 提示されたインセンティブに魅了されたこと
- 詐欺に関する不安があるにもかかわらずリスクをとることを選択したこと
- 友人や家族を過度に信頼したこと
- その他



詐欺の犠牲になった 主な理由

- 詐欺を認識できなかったこと
- 詐欺師の要求に素早く応じてしまったこと
- 詐欺を見分ける十分な知識がないこと
- 提示されたインセンティブに魅了されたこと
- 詐欺に関する不安があるにもかかわらずリスクをとることを選択したこと
- 友人や家族を過度に信頼したこと
- その他



報告意欲と回収した損失の割合

7



詐欺事件が増え続けているため、さまざまな地域の政府、公的機関、民間企業、オンライン・プラットフォーム・オペレーターが、報告、不服の申し立て、コンテンツの削除、金融取引の凍結まで行うためのシステムを積極的に確立している。これにより、詐欺活動を遅らせ防ぐことで、その影響を軽減している。GASA は Gogolook と協力して、人々の報告意欲と詐欺の犠牲になった後に回収した損失の割合を見出すための調査を実施し、既存のシステムと取り巻く環境を明らかにした。

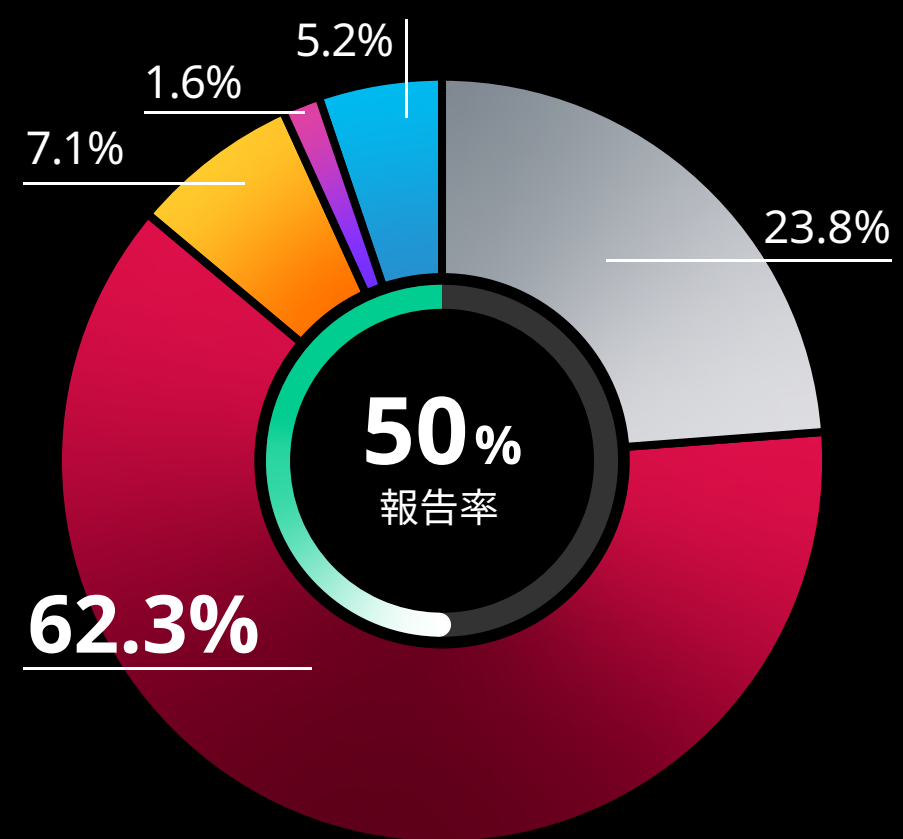
アジアの調査対象の 11 地域のうち、詐欺活動の報告意欲が最も高いのは中国 (55%) で、次いで、シンガポール (51.5%) と台湾 (50%) だった。さらに、マレーシア (48.9%)、香港 (47.2%)、日本 (46.7%)、インドネシア (40.4%) が続いている。逆に、比較的低い傾向を示したのは、タイ (36.4%)、韓国 (31.6%)、フィリピン (24.6%)、ベトナム (26%) であった。詐欺の犠牲になった後の経済的損失の回収割合を調べたところ、シンガポールが突出しており、損失した資産のすべての回収に成功した割合が調査した人々の 9.4% と

いう注目に値する数値で、さらに損失の大半を回収した割合は 2.2% だった。

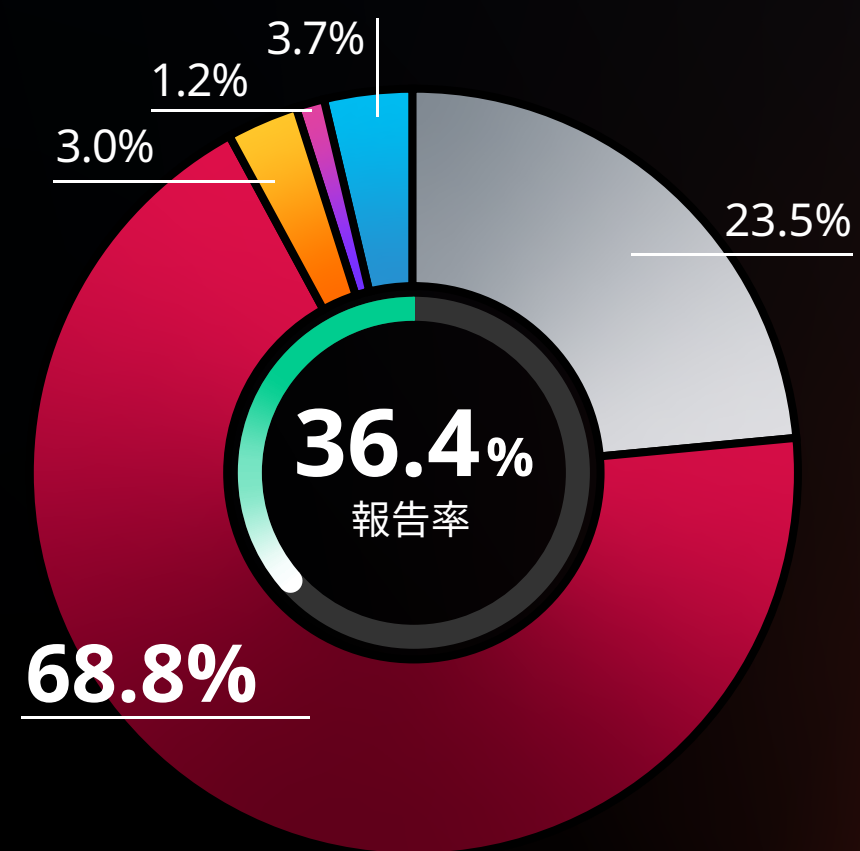
しかし、経済的損失の回収と人々の報告意欲のプラスの相関関係にかかわらず、詐欺防止の緩衝材の確立と、資金移転の利便性への消費者の需要という相反する目的が、グローバルな金融規制機関にとってジレンマを生み出してきた。たとえば、アジア最大の金融の中心地であるシンガポールでは、DBS、OCBC、UOB などの有力な地方銀行が、継続的に詐欺と経済的損失が発生している顧客の口座資金の一部を「ロック」するという試みを開始した。これには、デジタル預金は許可するが物理的な引き出しを制限した金融詐欺防止ポリシーを実装し、金融サービスにおいて利便性よりセキュリティを優先し詐欺防止へのコミットメントを明示するものである。

報告意欲と 回収した損失の割合

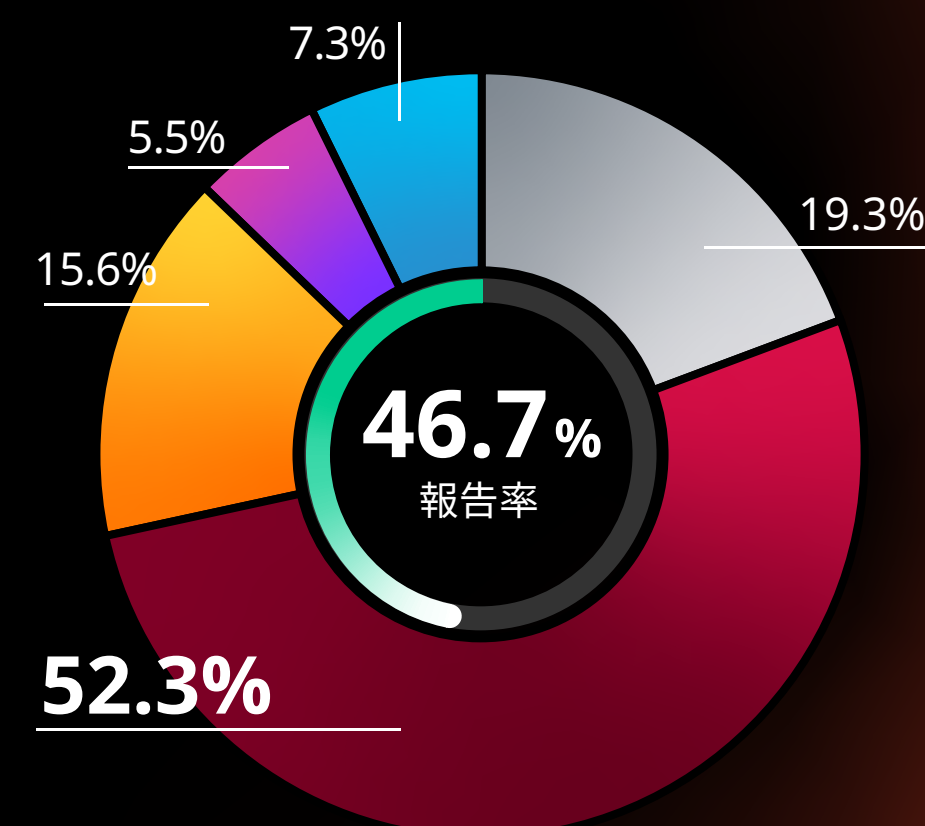
台湾



タイ



日本

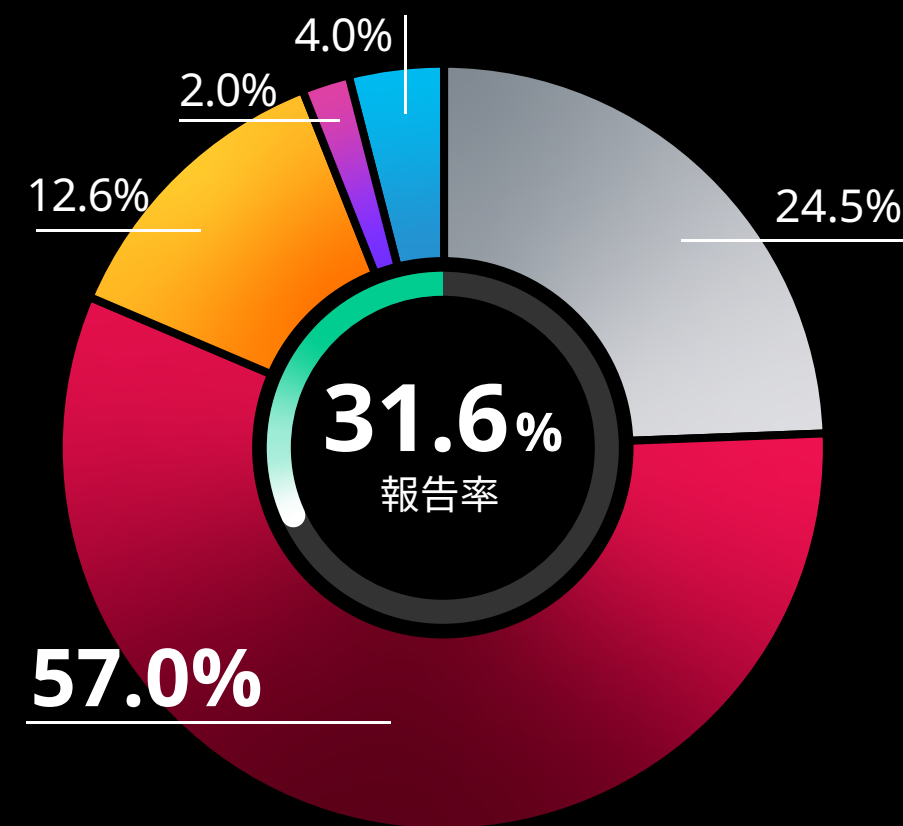


- はい、詐欺を報告し、すべての損失の回収に成功しました。
- はい、詐欺を報告し、損失の大半の回収に成功しました。
- はい、詐欺を報告し、部分的な損失の回収に成功しました。
- はい、詐欺を報告しましたが、損失は回収できませんでした。
- 詐欺を報告せず、損失は回収できませんでした。

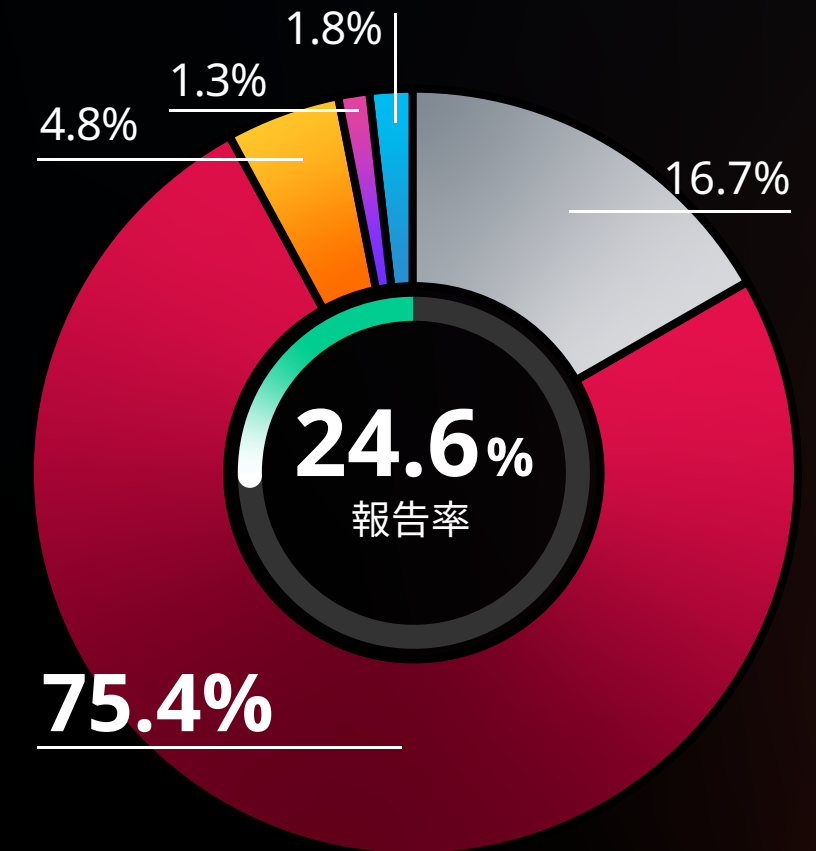
報告意欲と 回収した損失の割合

- はい、詐欺を報告し、すべての損失の回収に成功しました。
- はい、詐欺を報告し、損失の大半の回収に成功しました。
- はい、詐欺を報告し、部分的な損失の回収に成功しました。
- はい、詐欺を報告しましたが、損失は回収できませんでした。
- 詐欺を報告せず、損失は回収できませんでした。

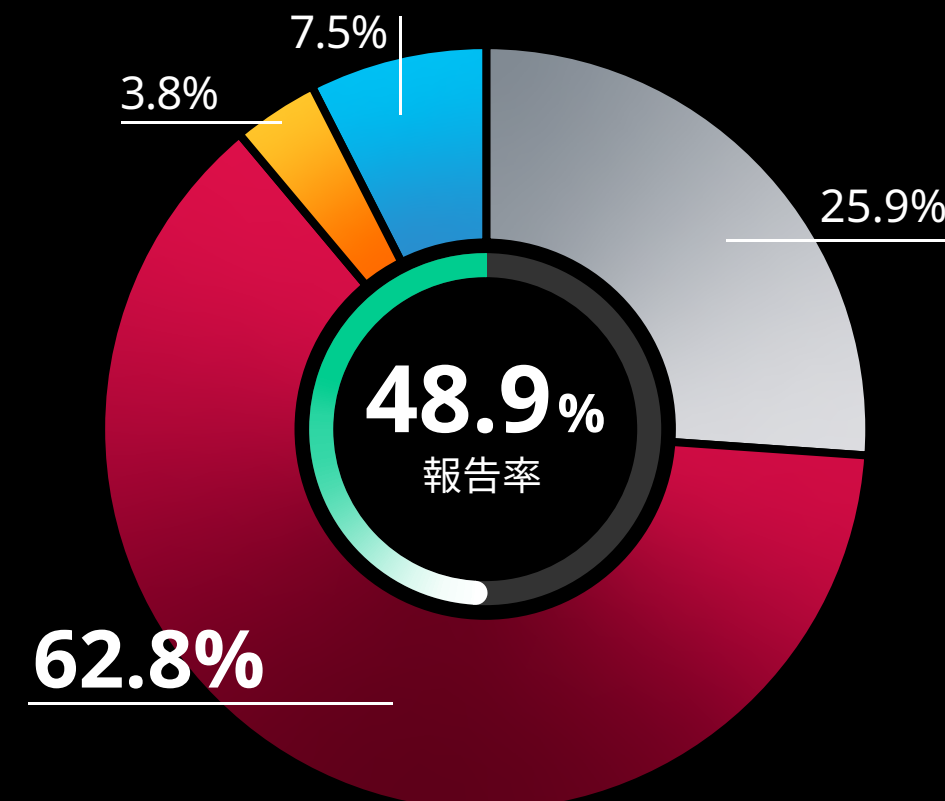
韓国



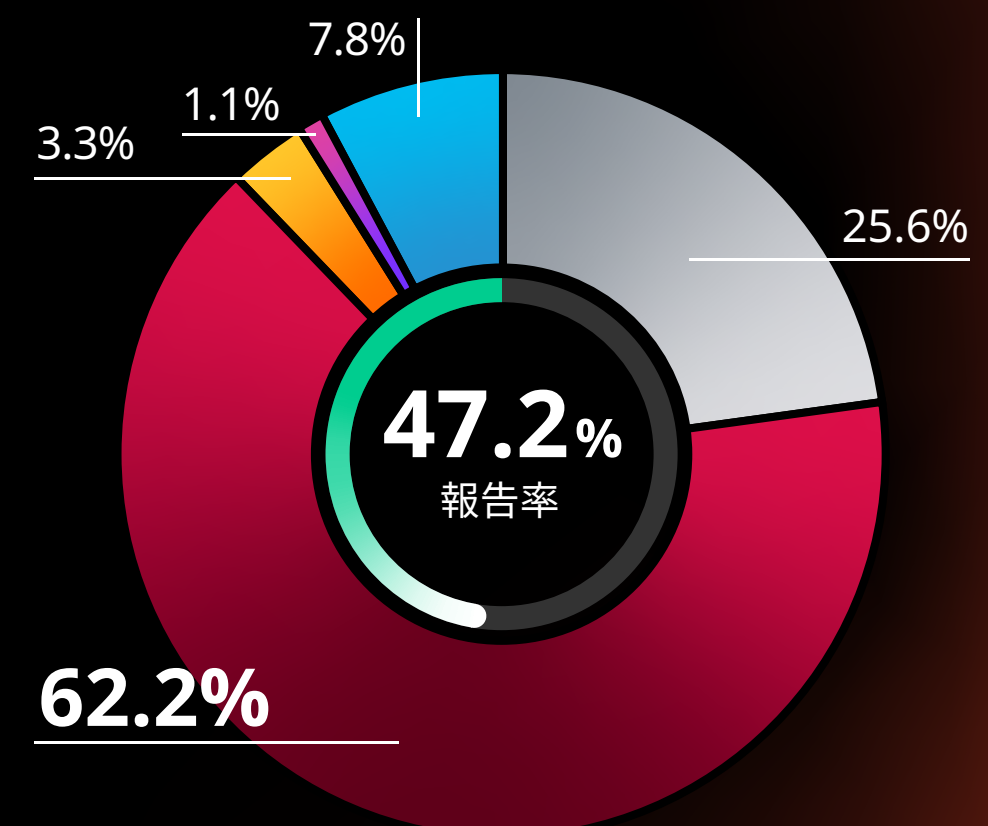
フィリピン



マレーシア



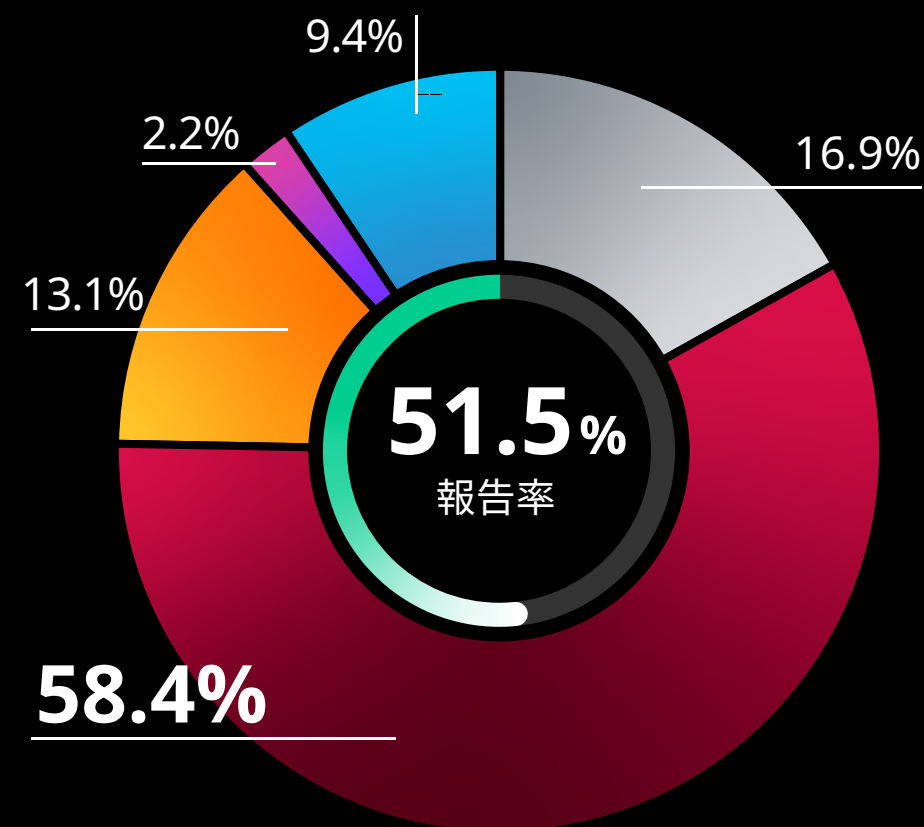
香港



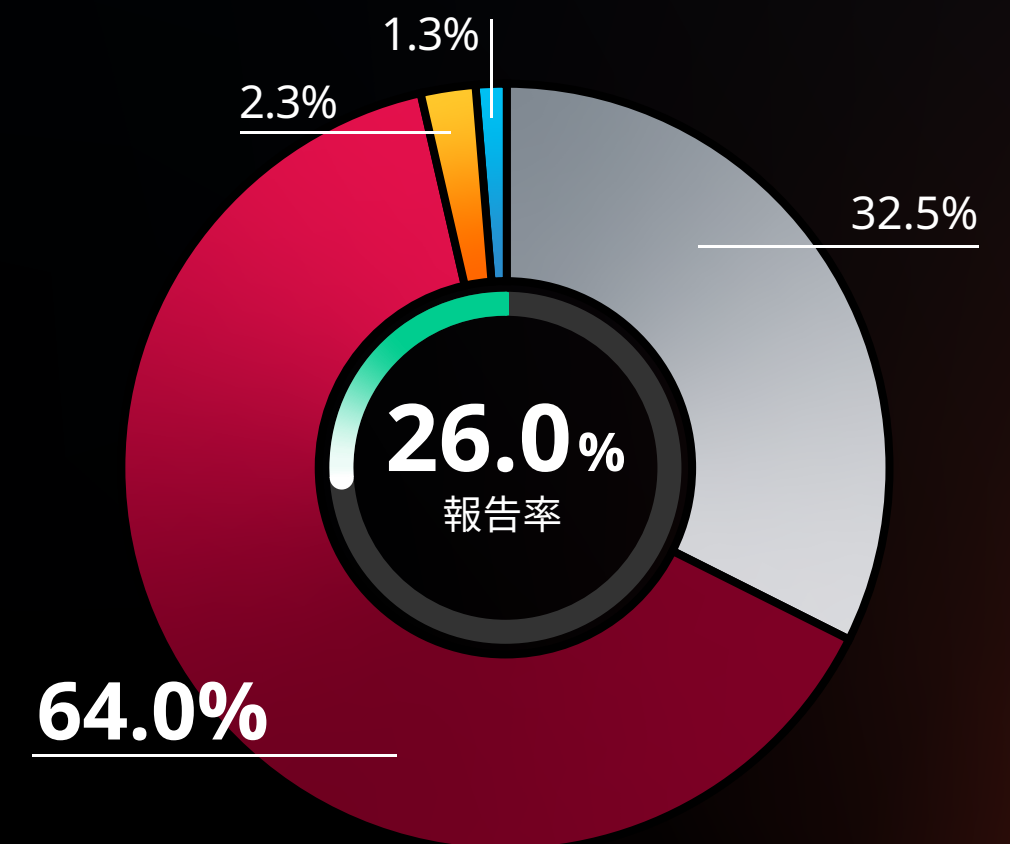
報告意欲と 回収した損失の割合

- はい、詐欺を報告し、すべての損失の回収に成功しました。
- はい、詐欺を報告し、損失の大半の回収に成功しました。
- はい、詐欺を報告し、部分的な損失の回収に成功しました。
- はい、詐欺を報告しましたが、損失は回収できませんでした。
- 詐欺を報告せず、損失は回収できませんでした。

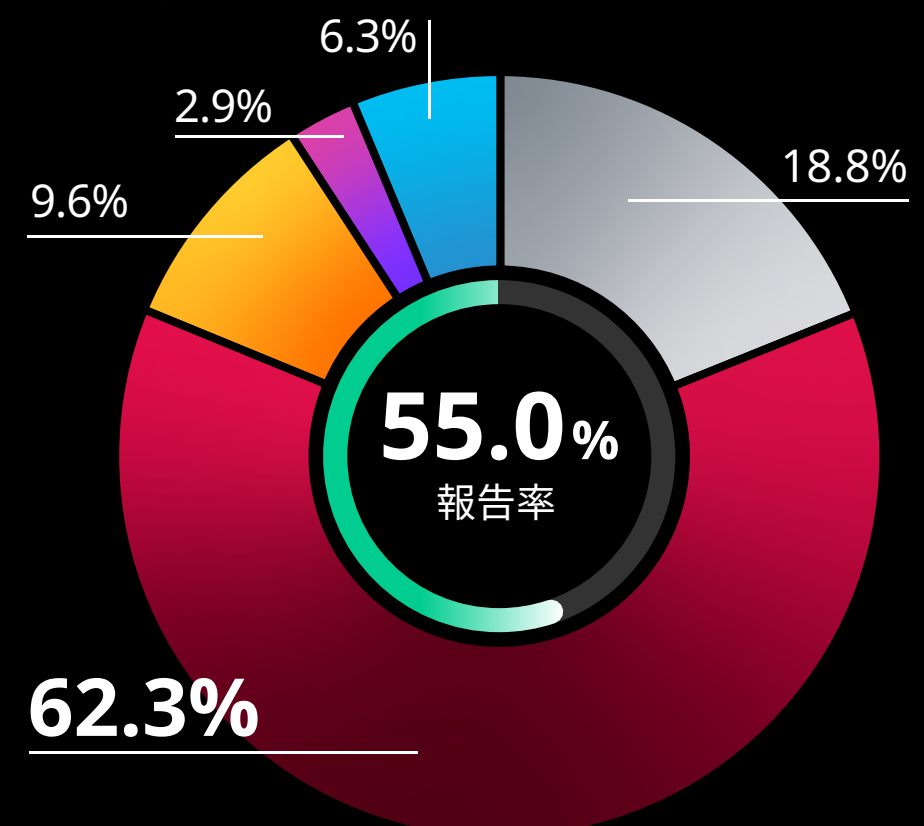
シンガポール



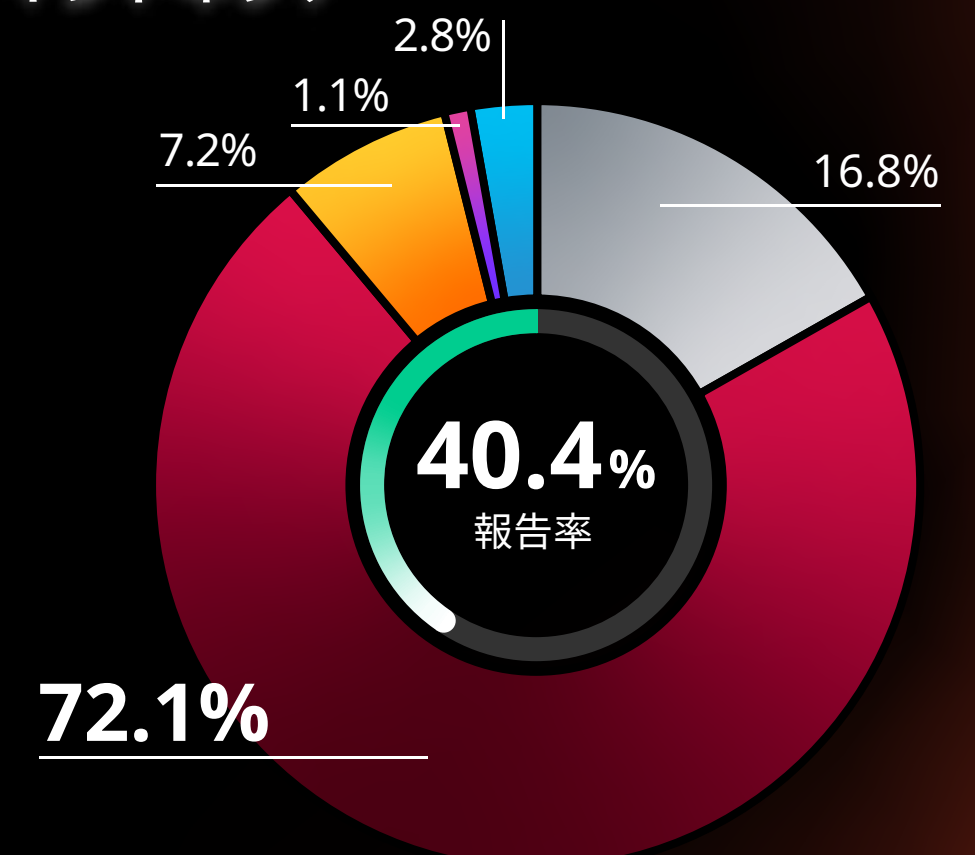
ベトナム



中国



インドネシア



詐欺報告先の組織と機関

8

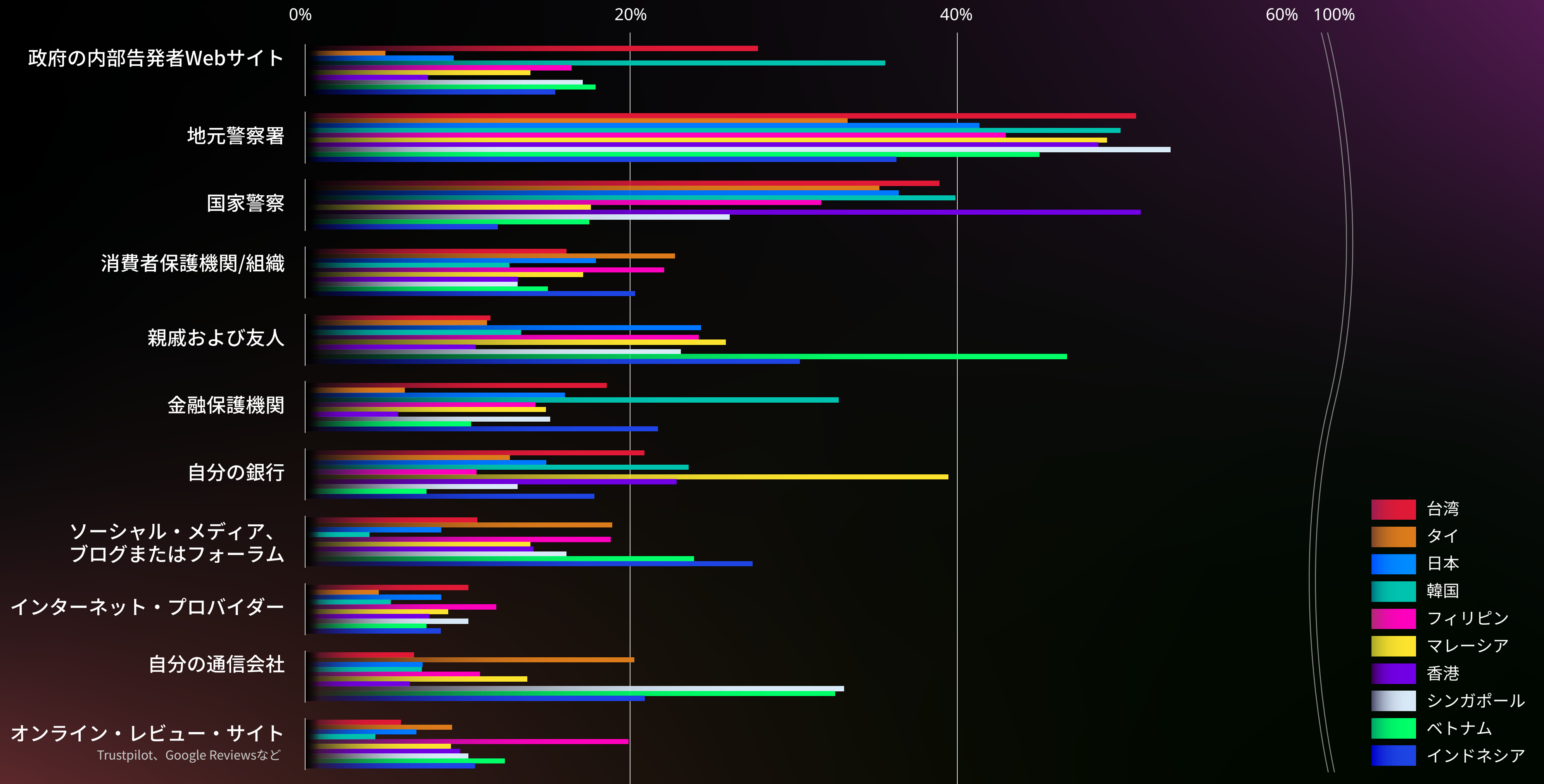
報告意欲と回収した経済的損失の割合を分析した後、GASA と Gogolook は、人々が通常報告する組織の分析へと掘り下げていった。さまざまな地域の主な責任機関を観察した分析では、報告プロセスの利便性を評価し、人々の好みに着目した。

さまざまなタイプの報告先組織を見ると、すべての地域で警察管区と中央警察機関が優勢である。台湾と韓国では、人口のかなりの割合が、政府が設置した詐欺報告用の Web サイトを使用している。たとえば、韓国の報告 Web サイトは Financial Supervisory Service (金融監視サービス) によって管理され、台湾の Criminal Investigation Bureau (刑事局) は、公式 Web サイトに専用の報告セクションを設けており、人々はインターネットを介して素早く報告または内部告発できる。近年、Facebook、Google、YouTube などのデジタル・プラットフォームに詐欺的広告が充満しているため、台湾の

Criminal Investigation Bureau (刑事局) は広告報告セクションも作成している。報告しきい値を下げることで、一般の人々の詐欺防止への関与を奨励し、これらの広告をなくすために関連機関と協力することを目的としている。

具体的な報告組織と好みを調べたところ、ベトナム人は詐欺を友人や家族に報告する可能性が最も高く、マレーシア人は銀行に報告する傾向がある。タイ、シンガポール、ベトナムでは、詐欺関連の情報を通信会社に優先して報告する傾向があり、地域毎の特性が反映されている。





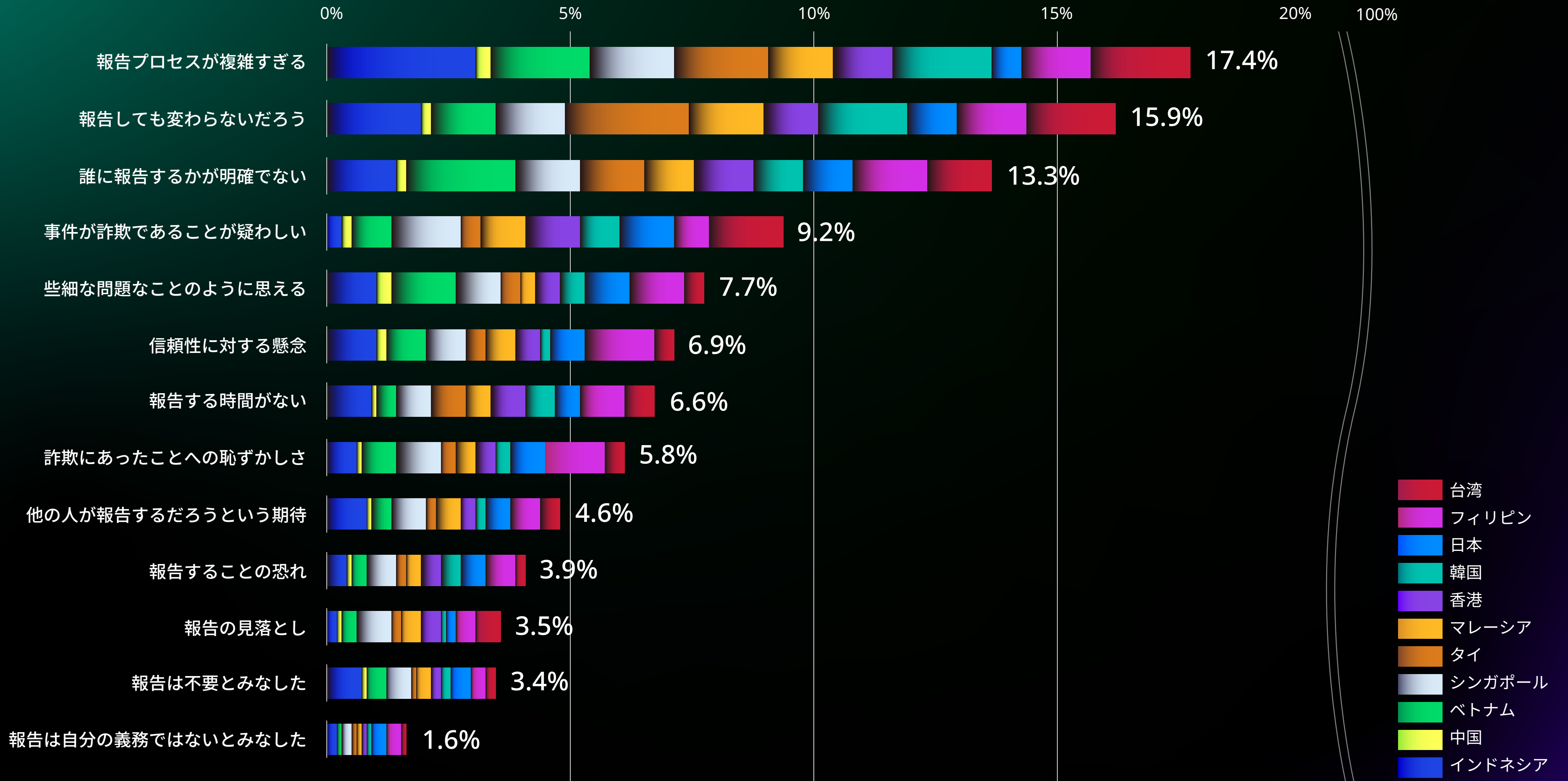
詐欺を報告しない理由

9



詐欺の防止は、政府、企業、または NGO だけに頼ることはできない。個人の通報、内部告発、相互警告の役割も等しく重要である。GASA と Gogolook は、詐欺を経験したが、それを報告しないことを選んだ人々の根本的な理由を調査した。特定された上位 3 つの理由は、「報告プロセスが複雑すぎる (14.4%)」、「報告しても特に変わらないだろう (14.0%)」、「および「誰に報告するかが明確でない (11.9%)」

これらの結果は、さまざまな地域で既存の枠組みと執行能力に対する一般の人々の不満が広がっていることを示している。特に、詐欺が増殖し迅速に進化している時代の効果的な詐欺防止には、十分に設計された協力的なメカニズムと詐欺の傾向と情報の迅速な共有が必要である。結局のところ、最も効果的なアプローチは、地域社会の努力と公的権限を統合し、最大限の効果を上げることである。



2023 Asia Scam Report (2023 年アジア詐欺レポート)

特別なる感謝

Mark Button 教授（ポーツマス大学、サイバー犯罪および経済犯罪センター、共同ディレクター）

Jack Whittaker 氏（サリー大学、犯罪学博士候補生）

Peter Hagenars 氏（オランダ警察）

調査



グラフィック・デザイン

OSOO®

問い合わせ先



Web サイト | <https://www.gasa.org/>

Linkedin | <https://nl.linkedin.com/company/global-anti-scam-alliance>

X | <https://twitter.com/ScamAlliance>

E メール | partner@gasa.org

Gogolook

Web サイト | <https://gogolook.com/>

Linkedin | <https://tw.linkedin.com/company/gogolook>

Facebook | <https://www.facebook.com/GogolookHQ>

E メール | service@gogolook.com